

第5章 学生の受け入れ

5-1 大学全体

1. 現状の説明

（1）学生の受入れ方針を明示しているか。

学生の受入れ方針（アドミッションポリシー）については、学部・大学院の入学試験要項に『東海大学は、「建学の精神」に基づき、専門だけにとらわれることなく幅広い視野をもち、自ら考えることで未来を切り拓く多様な人材の育成を目指しています。

東海大学はこのことに共鳴し自ら学ぶ意欲をもった人を求めています。』と記載しております。学部のアドミッションポリシーは、「東海大学 大学案内・学科パンフレット」、に記載しており、大学院は、研究科・専攻毎の「東海大学 大学院ガイド」に記載している。また、本学オフィシャルサイトにおいて学部・研究科毎に掲載し、広く周知を図っている。各種「入学試験要項」において、出願資格を設定し各学部・研究科の期待する知識の内容及び水準について明示している。また、本学オフィシャルサイトにおいても同様に掲載しており、近年導入したインターネット出願での受験生にも対応している。

障がいを持つ学生については、受験及び修学上特別の配慮を必要とする場合は、各種「入学試験要項」にて、出願前に申し出るように注意喚起を行っている。申し出のあった受験生については、文書にて本人の希望と本学の配慮内容のすり合わせを行い、配慮内容について合意の上で出願を認めている。

（2）学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

学生の受入れ方針に基づき、一般入試、センター試験利用入試、公募制推薦入試、指定校推薦入試、AO入試、留学生入試など多様な学生を募集するため、様々な入試制度を設けている。

学生募集方法、入学者選抜方法の周知については、各種「入学試験要項」、「東海大学入試情報」、本学オフィシャルサイトでの周知に加え、本学主催の高校教員向け説明会、高等学校での説明会、業者主催の進学相談会、オープンキャンパスでの個別相談等で情報提供に努めている。これらの説明については、入学センター職員を中心に大学内の事務部署から協力をいただいた入学アドバイザーによって行われている。

留学生については、本学のオフィシャルサイトの英字サイト、「留学フェア」への参加、日本語学校への広報を行い、周知を行っている。

入試制度の策定から試験実施おける検討事項や改善要求については、各学部・大学院より選出された委員で構成される入試企画専門委員会を組織し、学部入試及び大学院入試について検討を行っている。この委員会で決定した事項は上位組織の入試企画委員会にて検討され、最終的な承認を得ている。また、広報活動についても各学部・大学院より選出された委員で構成される常任広報委員会にて検討及び承認を行っている。

各種「入学試験要項」において各学部・大学院の入学試験における出願手続方法、試験上の注意、合格発表、入学手続方法について記載している。特に出願手続については入試制度毎に必要な書類が異なるため、書類の種別、提出期限について詳細に記載している。ま

た、試験実施においては試験日当日に持参できるものや不正行為の対処方法についても記載している。これらの措置によって、学生の受験時の不安低減に努めている。

選抜方法や選考方法については、各種「入学試験要項」において、学科試験、小論文、面接試験、専門・実技試験や調査書がどのように評価され合否判定に用いられるか明示している。

各入学試験の結果については、本学オフィシャルサイト及び学部については「東海大学入試情報」、大学院については「東海大学 大学院ガイド」に記載している。特に学部については「東海大学 入試情報」に出願状況の他、得点率や出題者からのアドバイスなども掲載し、本学を志望する学生に有益な情報を提供しつつ透明性も確保している。

（3）適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

2013年度教育研究年報基礎データの表13にあるとおり、ここ5年間の定員充足率は、1.02から1.08となっており、学科単位での上下動はあるものの適切に管理されている。大学院については、研究科によって充足状況に差異が生じている。これは、学部と異なり研究分野の有無によって出願状況が変動するためであり、質の確保の観点から容認している。

学部における入学者数の定員超過については、各入学試験における合否判定を厳正に行い、入学手続者数の予測精度を上げ医学部医学科などの一部の学科に関しては、定員超過を防ぐ施策をとっている。また、工学部土木工学科などの未充足学科を防ぐために補欠合格を行うことで欠員の回避を行っている。

大学院については、研究指導教員の人数や教育の質の確保もあるため定員の未充足や超過が発生しているが、著しい定員超過とならないよう厳正な合否判定を行っている。

（4）学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

学生の受け入れ方針が、適切に運用されているか入学後の追跡調査を入学センターにて行っている。その結果を踏まえ、入試制度の改革や指定校選定の資料等に活用している。

2. 点検・評価

評定 A

基準5の充足状況

学生の受け入れ方針について適切に公開しており、透明性も確保できている。また、収容定員の管理についても、適正に管理されており、学生の受け入れに関する基準をほぼ達成している。

① 効果が上がっている事項

アドミッションポリシーについては、「入学試験要項」や本学オフィシャルサイトを通じ広く公開されており、本学を志望する学生に適切に提示されていると評価できる。

学生募集、入学者選抜については、各種「入学試験要項」、「東海大学 入試情報」にて適切に情報提供を行っており、またその周知についても入学センターの職員だけでなく、学内各部署の協力によって選抜された入学アドバイザーが積極的に広報活動を展開しており、適切な周知ができているものと評価できる。

学部については、定員充足率が1.02から1.08と適切に管理できてはいるが、医

学部医学科などの一部の学科に関しては、定員超過を防ぐ施策をとっている。また、工学部土木工学科などの未充足学科を防ぐために補欠合格を行うことで欠員の回避を行っている。

大学院については、未充足や定員超過の研究科もあるが、学部への進学とは異なる志望動機となっており積極的な志願者確保は行っていない。未充足の研究科については、今後方策を検討する。

入試企画専門委員会、入試企画委員会、常任広報委員会など各会議体にて学生募集、入学者選抜に公平性や適切性について検討を行っている。ここでの決定を踏まえ、次年度の入試制度改革や新規広報企画の策定等の改善が行われ、検証の仕組みが十分機能していると評価できる。

② 改善すべき事項

各学部・学科毎のアドミッションポリシーの掲載が、本学オフィシャルサイトに限られており、今後は、各種「入学試験要項」や「東海大学 大学案内」にも掲載し、一層の周知を図る必要がある。

大学院の定員充足状況については、未充足の研究科と定員超過の研究科の差が大きいいため、各研究科の広報の推進に加え、収容定員の見直しを行う等の施策を行い改善に努める必要がある。

3. 将来に向けた発展方策

① 効果が上がっている事項

大学入試センター試験利用入学試験の後期日程でのみ実施していたインターネット出願を前期日程にも適用することで、本学を志望する受験生の出願の利便性向上を目指す。インターネット出願は時間や距離に左右されないため、本学を志望大学に加えていなかった学生への訴求効果は高いと思われる。また、多様な学生を確保することができるため、本学を志望する学生の首都圏地区偏在の解消にも有効であると考え。今後は他の試験制度への拡充を行い、本学の地方学生への周知の一助としたい。

② 改善すべき事項

各学部・学科毎のアドミッションポリシーの掲載が、本学オフィシャルサイトに限られており、今後は各種「入学試験要項」や「東海大学 大学案内」にも掲載し、一層の周知を図る必要がある。

大学院の定員充足状況の改善を目指し、各研究科の広報活動の推進を進める。また外国人留学生の増加によって、英字の入学試験要項の作成や本学オフィシャルサイトの英字サイトの充実を検討している。定員超過の著しい研究科・専攻については過去の入学状況を精査し、適切な人数を算出することで解消を目指す。また、学問分野の見直しについても検討を行い、今後の魅力ある改組につなげていきたい。

4. 根拠資料

5-1 「東海大学 大学案内 2014」

5-2 「東海大学 入試情報 2014」

5-3 「東海大学 大学院ガイド 2014」

5-4-① 「2014 年度東海大学入学試験要項 アドミッションズ・オフィス入学試験(学科課題型)」

5-4-② 「2014 年度東海大学入学試験要項 スポーツ・音楽優秀者アドミッションズ・オフィス入学

試験」

- 5-4-③ 「2014年度東海大学入学試験要項 アドミッションズ・オフィス入学試験（適性面接型）」
- 5-4-④ 「2014年度東海大学入学試験要項 同窓会アドミッションズ・オフィス入学試験」
- 5-4-⑤ 「2014年度東海大学入学試験要項 公募制推薦入学試験」
- 5-4-⑥ 「2014年度東海大学入学試験要項 指定校推薦入学試験」
- 5-4-⑦ 「2014年度東海大学入学試験要項 一般入学試験・センター試験利用入学試験」
- 5-4-⑧ 「2014年度東海大学入学試験要項 工学部航空宇宙学科航空操縦学専攻入学試験」
- 5-4-⑨ 「2014年度東海大学入学試験要項 医学部神奈川県地域枠入学試験」
- 5-4-⑩ 「2014年度東海大学入学試験要項 スポーツ優秀者特別入学試験」
- 5-4-⑪ 「2014年度東海大学大学院春学期一般・社会人特別入学試験要項」
- 5-4-⑫ 「2014年度東海大学大学院春学期推薦入学試験要項」
- 5-4-⑬ 「2014年度東海大学大学院秋学期一般・社会人特別入学試験要項」
- 5-4-⑭ 「2014年度東海大学大学院秋学期推薦入学試験要項」
- 5-5 「東海大学オフィシャルサイト 入試情報」 http://www.u-tokai.ac.jp/admission_app/
- 5-6-① 「東海大学オフィシャルサイト アドミッションポリシー 学部」
http://www.u-tokai.ac.jp/about/concept/admission_policy.html
- 5-6-② 「東海大学オフィシャルサイト アドミッションポリシー 大学院」
http://www.u-tokai.ac.jp/about/concept/admission_policy2.html
- 5-7 「東海大学 2013年度教育研究年報 基礎データ」

5-2 学部

5-2-1 文学部

1. 現状の説明

（1）学生の受入れ方針を明示しているか。

学生の受入れ方針（アドミッションポリシー）については、大学の方針に基づき、文学部全体は「大学案内」、14学科・専攻については各「学科案内」のパンフレットに記載している。また、大学オフィシャルサイトにおいて文学部および学科専攻毎に掲載し、広く周知している。

各学科・専攻入学に際しての修得しておくべき知識等の内容・水準については、各「入学試験要項」および大学オフィシャルサイトにおいて出願資格とあわせ明示している。また、学部教員より学部・学科説明会、オープンキャンパス、模擬授業等の機会に受験生に説明している。

（2）学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

文学部では一般入試、センター試験利用入試、付属校推薦入試、公募制推薦入試、指定校推薦入試、AO入試など様々な入学者選抜方法により、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っている。各入試の学生募集方法や入学者選抜方法の周知については、大学が指定する情報媒体を通じて情報を提供している。

学生募集に関する広報面での文学部独自の取り組みとしては、学部を文明、歴史、言語・文学、現代社会の視点から紹介した小冊子、各学科・専攻代表の学生（OUTSTANDERS）による学科案内のDVDを作成し、学部・学科説明会、オープンキャンパス等で活用し、受験生の学科・専攻選びのヒントを提供している。また、学部内の3学科では自学科の教育活動などを紹介したニュースレターを独自に作成し、付属高校、近隣の高校などに配布している。

（3）適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

2014年度における文学部14学科専攻の在籍学生数は4142名で、収容定員数3720名に対する比率は1.11倍となっている。また、文学部の入学定員に対する入学者数の比率（2010～2014年平均）は113.4%となっている。学科別に見た場合、1学科のみ定員割れ（91.0%）となっているものの、同学科の2014年度の数值は98.3%と改善しており、全体としては適切に管理されていると判断できる。

（4）学生募集および入学者選抜は、学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

各入試における実施上の問題点、改善要望事項がある場合には、学部代表の委員を通じ入試企画専門委員会で検討することになっている。

文学部では高大連携の一環として、文学部教員と付属高校・中学教員との意見交換会を年1回実施し、その中で付属推薦入試に関する議論を行っている。また、各学科・専攻では入学センターが実施する追跡調査の結果を利用して、指定校選定の見直し等を行っている。

2. 点検・評価

評定 A

基準5の充足状況

文学部の学生の受け入れ方針は適切に公開され、透明性も確保できている。また、収容定員の管理については適正に行われており、学生の受け入れに関する基準もほぼ達成されている。

① 効果が上がっている事項

学生募集に関して、文学部所属の各教員が18歳人口の減少という危機意識を共有し、文学部独自の組織的な取り組みが行われた。学部内に設置された広報部会による小冊子やDVDの作成、FD委員会による高大連携活動などを通じ、14学科・専攻の学生受け入れ方針（アドミッションポリシー）の浸透が図られた。

② 改善すべき事項

学科・専攻レベルでの広報活動が一部学科に止まっており、学科教員の研究・教育活動、在学生の生の声などを受験生向けにより積極的に発信する努力が必要である。

3. 将来に向けた発展方策**① 効果が上がっている事項**

近隣の他大学文学部との差別化を意識し、東海大学文学部の教育の特色・多様性をアピールしてきたが、今後はそれらが入学後の学生の満足度に結び付くよう充実させていく予定である。

② 改善すべき事項

一部学科で定員未充足となっているが、一定の基礎学力を有した入学者を確保しつつ、定員を充足することが重要であり、文学部全体として各種入試の志願者を増加させ、競争力を高める施策が求められる。

4. 根拠資料

5-1 「東海大学 大学案内2014」 P. 081

5-2 14学科・専攻の各「東海大学 学科案内」 P. 02

5-3 「東海大学文学部 14学科・専攻ガイド」

5-4 「文学部ビデオ 2013年版」(DVD)

5-5-① 「ヨーロッパ文明学科ニュースレター」2014年春号、2014年冬号

5-5-② 「北欧便り」2014年春号、2014年夏号、2014年冬号

5-5-③ 「心理・社会学科新聞」第4号（2015年1月10日発行）

5-6 「東海大学 2013年度教育研究年報 基礎データ」III 学生受け入れ：学部・学科の志願者・合格者・入学者数の推移（表13）

5-7 「2014年度ミッション・シェリング・シート 文学部」I-5：高等学校教育との連続性の確立

5-2-2 観光学部

1. 現状の説明

(1) 学生の受け入れ方針を明示しているか。

本学オフィシャルサイトにおいて本学部も学生の受け入れ方針を掲載するとともに、大学ポータルにも掲載しており、広報の機会を確保している。その内容は、「観光学部・観光学科では、本学部・学科の教育目標「現代の文化・社会・自然の多様性に関する知識と理解、問題発見解決力・創造力を始めとする汎用的な能力と技能、協調性を保ちつつ独自性を発揮できる自己管理能力等、学士の学位をもって社会で生きる基礎的な力を有し、観光・サービス産業に広く貢献しうる独創的人材を育成する」に共鳴し、自ら学ぶ意欲をもった人を求める」というものである。

また、上記のような学生の受け入れ方針について共鳴する者に対しては、次のような対応を行っている。すなわち、「入学試験要項」において、出願資格を設定し本学部の期待する知識の内容及び水準について明示している。さらに、障がいを持つ学生については、受験及び修学上特別の配慮を必要とする場合は、「入学試験要項」において、出願前に申し出るように促している。申し出のあった学生については、文書にて本人の希望と本学部の配慮内容のすり合わせを行い、配慮内容について合意の上で出願を認めている。また、留学生については、本学のオフィシャルサイトの英字サイトに学生の受け入れ方針を掲出している。このように、学生の受け入れ方針を明示・公表するのみでなく、学生の受け入れ方針に賛同するあらゆる入学希望者に対して、差別のない受け入れ姿勢を示している。

(2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

本学部では、一般入試、センター試験利用入試、公募制推薦入試、指定校推薦入試、AO入試、留学生入試など多様な学生を募集するため、様々な入試制度を実施している。

学生募集方法、入学者選抜方法の周知については、「入学試験要項」、「入試情報」本学オフィシャルサイトでの周知に加え、本学部主催のオープンキャンパスでの個別相談等で情報提供に努めている。これらの説明については、本学部所属教員によって行われている。留学生については、本学のオフィシャルサイトの英字サイトに載せるとともに、別科日本語研修課程との連携等によって、周知を行っている。

本学部からも選出された委員で構成される全学的な入試企画専門委員会において、本学部入試についても検討を行っている。この委員会で決定した事項は上位組織の入試企画委員会にて検討され、最終的な承認を得ている。また、広報活動については常任広報委員を本学部からも選出し、全学で構成される常任広報委員会において検討及び承認が行われている。「入学試験要項」には本学部を含んだ大学全体の入学試験における出願手続方法、試験上の注意、合格発表、入学手続方法について記載されている。

以上のように、学生募集は公平かつ適切に行われているとすることができる。

次に、入学者選抜に関しては、さまざまに異なった種別の入試については、時期が異なるため、それぞれ別々の入試判定委員会によって合格判定を行っているのが実情である。しかし、それぞれの入試種別には、固有の定員が割り当てられており、制度的に公正さを保つ仕組みが作られている。それぞれの入試の合格判定は、学部でのみ行うのではなく、

学長を委員長とし、入学センターを事務局とする入試判定委員会で、本学部の入試判定委員と他学部の入試判定委員の合議の上、公正かつ適切に判定が行われているということは確実であり、問題が生じる余地はない。

さらに、本学部の入学試験の結果については、本学オフィシャルサイト及び「入試情報」に記載されている。「入試情報」には出願状況の他、得点率や出題者からのアドバイスなども掲載し、本学部を志望する学生に有益な情報を提供しつつ透明性も確保している。

（3）適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

教育研究年報基礎データの表13にあるとおり、ここ5年間の定員充足率は、概ね1.1となっており、適切に管理されている。

本学部における入学者数の定員超過については、すでに述べたように、各入学試験における合否判定を厳正に行い、入学手続者数の予測精度を上げ定員超過を防ぐ施策をとっている。これにより著しい定員超過とならないよう厳正な合否判定を行っている。

（4）学生募集および入学者選抜は、学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

学生の受入れ方針が、適切に運用されているかどうかについては、入学後の学生の状況について、学科会議、教授会等で検討・検証している。また、すでに触れたように、本学には入試企画小委員会並びにその上位組織である入試企画委員会があり、本学部の学生募集と入学者選抜のあり方については、毎年度検証が行われ、公正さと適切さを保つように配慮されている。

2. 点検・評価

評定 A

基準5の充足状況

学生の受入れ方針について適切に公開しており、透明性も確保できている。また、収容定員の管理についても、適正に管理されており、学生の受入れに関する基準を十分達成している。

① 効果が上がっている事項

学生募集、入学者選抜については「入学試験要項」、「入試情報」にて適切に情報提供を行っており、また、その周知についても学部所属教職員、代々木教学課等の協力によって、適切な周知ができているものと評価できる。

本学部については、定員充足率がほぼ1.1と適切に管理できている。

② 改善すべき事項

本学部のアドミッションポリシーの掲載が、本学オフィシャルサイトと大学ポータルに限られており今後は入学試験要項や大学案内等他の媒体にも掲載し、一層の周知を図る必要がある。

3. 将来に向けた発展方策

① 効果が上がっている事項

インターネット出願を前期日程にも適用することで、本学部を志望する学生の利便性向上がはかられた。インターネット出願は他大学での導入も進んでおり、本学部を併願先とする受験生の増加が期待できる。また、多様な学生を確保するためにも、本学部を志望する学生の地域的偏在の解消にも資するものである。。

② 改善すべき事項

本学部の広報活動のさらなる推進をはかる必要がある。増加しつつある外国人留学生のために、英字の入学試験要項の作成や本学オフィシャルサイトの英字サイトのさらなる充実をはかるべきである。高校、予備校等への周知も強化しなければならない。また、学生の受け入れ方針に、入学以前に学習すべき科目等を具体的に示す必要がある。

4. 根拠資料

- 5-1 「東海大学大学案内2014」
- 5-2 「東海大学入試情報2014」
- 5-3-① 「2014年度東海大学入学試験要項アドミSSIONズ・オフィス入学試験（学科課題型）」
- 5-3-② 「2014年度東海大学入学試験要項スポーツ・音楽優秀者アドミSSIONズ・オフィス入学試験」
- 5-3-③ 「2014年度東海大学入学試験要項同窓会アドミSSIONズ・オフィス入学試験」
- 5-3-④ 「2014年度東海大学入学試験要項公募制推薦入学試験」
- 5-3-⑤ 「2014年度東海大学入学試験要項指定校推薦入学試験」
- 5-3-⑥ 「2014年度東海大学入学試験要項一般入学試験・センター試験利用入学試験」
- 5-3-⑦ 「2014年度東海大学入学試験要項スポーツ優秀者特別入学試験」
- 5-4 「東海大学オフィシャルサイト入試情報」
http://www.u-tokai.ac.jp/admission_app/
- 5-5 「東海大学オフィシャルサイトアドミSSIONポリシー学部」
http://www.u-tokai.ac.jp/about/concept/admission_policy.html
- 5-6 「東海大学 2014 年度教育研究年報基礎データ」

5-2-3 政治経済学部

1. 現状の説明

(1) 学生の受入れ方針を明示しているか。

政治経済学部における学生の受入れ方針（アドミッション・ポリシー）については、「大学案内」、「入学試験要項」に記載しており、政治経済学部を構成する政治、経済、経営の各学科については、「学科案内」に記載している。また、本学のホームページにおいても学部、学科それぞれについて掲載し、周知を図っている。

政治経済学部および各学科のアドミッション・ポリシーは以下の通りである。

（政治経済学部）政治経済学部では、本学部の教育目標「我が国および国際社会の一層の発展と向上に寄与しうる『冷静な頭脳と温かい心』」に立脚した『社会力』を持つ人材の養成」に共鳴し、自ら学ぶ意欲を持った人を求めます。

（政治学科）政治学科では、本学科の教育目標「政治、地方行政、国際政治について の幅広い知識を持ち、様々な現代の政治課題を多面的に検討して政策提言できる人材を養成すること」に共鳴し、自ら学ぶ意欲を持った人を求めます。

（経済学科）経済学科では、本学科の教育目標「経済現象を理論的に解明し、経済現象に関する資料を分析し、経済問題に関して政策提言できる人材を養成すること」に共鳴し、自ら学ぶ意欲を持った人を求めます。

（経営学科）経営学科では、本学科の教育目標「経営理論と実践的能力を身につけ、これを実社会で十分生かしていけるような能力を備えた人材を養成すること」に共鳴し、自ら学ぶ意欲を持った人を求めます。

(2) 学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

学生の受入れ方針にもとづき、一般入試、センター試験利用入試、AO入試、公募制推薦入試、指定校推薦入試、留学生入試など、多様な学生を募集するため、様々な入試制度によって学生募集、入学者の選抜を行っている。

学生募集の方法、入学者選抜の周知については、「入学試験要項」、「入試情報」、大学のホームページで行われている。また、各入試の結果については、「入試情報」に掲載し、受験者の参考に資している。

各種入試の中でも、学力系以外の入試においては、受験者に入試の趣旨・特性を周知し、選抜に携わる各教員もそれを確認することで公正かつ適切な選抜を実施している。

(3) 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

「教育研究年報」基礎データの表 13 にあるとおり、政治経済学部の過去5年間の定員充足率は1.06～1.29であり、年度、学科によって差があるものの2010年度を除いて適切に管理されている。

(4) 学生募集および入学者選抜は、学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

学生の受入れ方針が適切に運用されているか、入試センターと連携を取りながら追跡調査を行っている。その結果を活用し、入試種別ごとの目標人数、各学科における指定校推

薦の際の指定校選定見直しなどを実施している。

2. 点検・評価

評定 A

基準5の充足状況

政治経済学部の受け入れ方針については適切に公開しており、透明性も確保されている。また、収容定員についても適正に管理されており、学生の受け入れに関する基準をほぼ達成している。

① 効果が上がっている事項

学部のアドミッション・ポリシーについては「大学案内」、「入学試験要項」、本学ホームページで公開されており、政治経済学部を志望する学生に対して適切に提示されていると評価できる。

② 改善すべき事項

2010年度の定員充足率が1.29であったことは入学後の少人数教育に少なからず影響をおよぼす可能性があるため、検討が必要である。

3. 将来に向けた発展方策

① 効果が上がっている事項

各学科のアドミッション・ポリシーが「大学案内」、「入学試験要項」に掲載されていないため、関係部署と協議の上、改善することが必要である。また、ホームページの見やすさについても、同様に改善する必要がある。

② 改善すべき事項

各学科における入学者数の定員超過については、入試センターと連携を取り、入試種別ごとに入学手続き者の予測精度を上げることで、著しい定員超過にならないよう今後も厳正な合否判定を行う必要がある。

4. 根拠資料

5-1「東海大学 大学案内 2014」

5-2「東海大学 入試情報 2014」

5-3「東海大学学科案内 政治学科 2014」

5-4「東海大学学科案内 経済学科 2014」

5-5「東海大学学科案内 経営学科 2014」

5-6 東海大学HP「アドミッション・ポリシー」

http://www.u-tokai.ac.jp/about/philosophy_history/concept/admission_policy.html

5-7「東海大学 2013年度教育研究年報 基礎データ」

5-2-4 経営学部

1. 現状の説明

（1）学生の受入れ方針を明示しているか。

学部・学科の入学受入れの方針（アドミッションポリシー）は、次のように明示している。経営学部については、「企業経営の実践的センスと変化に対応できる柔軟な思考力を身につけ、それをもって地域の産業活性化（特に農業・スポーツ・観光分野）に寄与するという目的に共鳴した人を求めます。」経営学科については、「経営学科では、自らの頭で考え、判断し、自ら行動できる人材を育成することを目的としています。そのために、本学の掲げる建学の精神、教育理念及び学科コンセプトである『理論と実践の融合』に共鳴し、自ら学ぶ意欲を持って、健全な精神と体躯の涵養に励むことができる人材を求めます。」

観光ビジネス学科については、「観光ビジネス学科では、観光ビジネスに必要な知識や技能とそれを実践する力を備え、観光による地域経済の活性化に寄与し、異文化理解の能力及び語学力の修得を通して、九州とアジアとの国際交流を促進できる人材を育成するという目的に共鳴する人を求めます。」

なお、入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準は、明示していない。障がいのある学生の受け入れの方針についても明示していない。

（2）学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学選抜を行っているか。

学生募集方法、入学選抜方法の適切性

入学選抜において透明性を確保するための措置の適切性

オープンキャンパス、大学のホームページ、テレビ広告等で、オープンに、学生募集を行っている。入学選抜については、出願資格、選抜方法、選考基準などを明示し、公正性、適切性の確保を図っている。

（3）適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

経営学部は2013年度開設の学部で、1年、2年合計で423名。収容定員は460名。超過率は0.92。経営学科は、1年、2年合計で325名。収容定員は300名。超過率は1.08。観光ビジネス学科は、1年、2年は合計で98名。収容定員は160名。超過率は0.61。

このように経営学部全体では、収容定員に対する在籍学生数比率は、0.92で在籍学生が不足気味である。経営学科では、収容定員に対する在籍学生数比率は1.08と、適切である。観光ビジネス学科は、収容定員に対する在籍学生数比率は0.61と低く、未充足に関する抜本的な対応が必要である。

根拠資料：学生数

（4）学生募集および入学選抜は、学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

学生募集および入学選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについては、毎年自己点検・評価を行うなかで検証している。

2. 点検・評価

評定 B

基準5の充足状況

学生の受け入れ方針については、明示しており、大学基準協会の基準を充足している。この学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っており、大学基準協会の基準を充足している。

適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているかについては、定員に対する超過率が0.92であり、大学基準協会の基準を十分には充足していない。

しかし、学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについては、定期的に検証を行っており、大学基準協会の基準を充足している。

① 効果が上がっている事項

学生の受け入れ方針を、適切に明示している。

② 改善すべき事項

観光ビジネス学科の定員の充足率が0.61と低い。

入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準は、明示していない。障がいのある学生の受け入れの方針についても明示していない。

3. 将来に向けた発展方策

① 効果が上がっている事項

学生の受け入れ方針の明示を、継続して行っていきたい。

② 改善すべき事項

観光ビジネス学科の定員の充足率が低く、充足率を上げていく試みが早急に求められる。

入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準、ならびに、障がいのある学生の受け入れの方針について、アドミッションポリシーとして、あるいは別の項目に、明示して記載することが、求められる。

4. 根拠資料

経営学部根拠資料5-1：学部・学科の入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー） _ 理念・憲章 _ 大学概要 _ 東海大学

(http://www.u-tokai.ac.jp/about/concept/admission_policy.html)

経営学部根拠資料5-2：入試情報 東海大学HP

(http://www.u-tokai.ac.jp/admission_app/)

経営学部根拠資料5-3：学生数 _ 大学概要 _ 東海大学HP

(http://www.u-tokai.ac.jp/about/num_student/index.html)

5-2-5 法学部

1. 現状の説明

(1) 学生の受入れ方針を明示しているか。

法学部の学生受入れ方針は、入学試験要項のほか、本学ホームページ、学科案内パンフレットに掲載され、明示されている。

(2) 学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

学生受入れ方針を明示して学生募集を行うとともに、全学の制度的・統一的な取組の中で、学力選抜入試——一般入試A方式・同B方式・大学入試センター試験利用入試（前期）・同（後期）、推薦入試——公募制推薦入試・指定校推薦入試、アドミッションズ・オフィス入試（学科課題型）等により公正に入学者選抜を行っている。

(3) 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

法学部の2014年度における入学定員は300人（入学者数331人、超過率1.10）、収容定員は1200人（在籍学生数1324人、超過率1.10）である。定員は適切に設定されており、これに見合った数の学生を受け入れている。

(4) 学生募集および入学者選抜は、学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

入学センター等全学の関係部署において組織的、定期的に検証が行われるほか、合否判定の機会に開催される法学部教授会の場において随時検証を行っている。

2. 点検・評価

評定 A

基準5の充足状況

「アドミッション・ポリシー」を明示し、公正に学生募集及び選抜を行い、定員の設定、学生受入及び在籍学生数の管理が適切に行われ、組織的なレビューも行っていることから、基準を充足している。

① 効果が上がっている事項

学生の受入れ方針を明示し、それに基づいて学生募集、入学者選抜を行うことにより、また、定員を設定・管理することにより、学部の理念・目的に沿った人材の育成が図られている。

② 改善すべき事項

学生受入れ方針と教育内容の関係を検証して、具体的な改善に結びつけていく必要がある。

3. 将来に向けた発展方策

① 効果が上がっている事項

2017年カリキュラム改定に向けた作業のなかで、どのような人材を育成し社会に送り出すのかという視点で、アドミッション・ポリシーについても検討が進行中である。

② 改善すべき事項

魅力ある教育内容、成果・キャリアに連動したアドミッション・ポリシーの確認あるいは再定義を行うとともに、それを教員間の共通認識にする必要がある。

4. 根拠資料

- 5-1 アドミッション・ポリシー（東海大学ウェブサイト）
- 5-2 『法律学科』東海大学学科案内パンフレット 2015 年度入学者向け（抄）
- 5-3 学生数（2014.5）——入学者数、入学定員、収容定員、超過率 等
（東海大学ウェブサイト）
- 5-4 学生募集要項、入学試験要項 【添付省略】

5-2-6 教養学部

1. 現状の説明

（1）学生の受入れ方針を明示しているか。

学生の受入れ方針は、大学全体の方針の下に、学部のアドミッションポリシーを「本学部の教育目標である「広い視野で総合的な判断力を有する均衡の取れた文理融合型の人材育成」に共鳴し、自ら学ぶ意欲を持った人材を求めます」として、大学 HP（『東海大学 HP アドミッションポリシー』）で明示・公開している。また、各学科・課程のアドミッションポリシーについても同様に明示・公開している。

なお、入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準、および障がいのある学生の受入れ方針については明示していない。

（2）学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

学生募集方法は、大学 HP（『東海大学 HP 受験生の方』）、入試情報誌（『東海大学入試情報』）、および入学試験要項（『東海大学入学試験要項』）などにより明示・公開されている。

入学者の選抜は、大学の学生受入れ方針、学部および各学科・課程の受入れ方針に共鳴し、自ら学ぶ意欲を持った人材を求めていることから、その多様性に対応できるように、大きく分けて「A0 入試」、「推薦入試」および「学力選抜型入試」を設けている。

入学者の選抜基準については、学内の入試企画委員会などにより学部・学科・課程の意見を取り入れて決定され、入学試験要項（『東海大学入学試験要項』）に記載されている。その選抜基準に従った合否の判定について、「A0 入試」および「推薦入試」は主に各学部・学科・課程の判定案を大学の入試判定委員会で検討し、「学力選抜型入試」は大学にて作成された判定案を各学部・学科・課程で検討した上で、入試判定委員会にて検討するなどの複数の合否判定の検討が行われており、入学者選抜において透明性を確保するための適切な措置がとられているといえる。

（3）適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

収容定員に対する在籍学生数比率は、学部内学科・課程で 1.00 から 1.14（『東海大学 HP 学生数（2014 年度大学在学者数一覧）』）で、収容定員以上の在籍者数を確保している。また、文部科学省の大学設置審査基準要項（『文部科学省 大学設置審査基準要項 一一』）の上限である 1.5 を超えていない。

平成 27 年 4 月 17 日付けで大学基準協会からの通知「改善報告書（大基委大評第 8 号）」（『大学基準協会「改善報告書検討結果（東海大学）」』）で指摘のあった、人間環境学科および芸術学科において推薦入試や A0 入試で入学者数が定員の 2 倍を超える件について、2014 年度は両学科共に 2 倍を超えることはなく、改善が図られた。

（4）学生募集および入学者選抜は、学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

学生募集および入学者選抜については、学内の関係部署において継続した検証が行われているが、主に各学科・課程においても随時検証を重ねている。

2. 点検・評価

評定 B

基準5の充足状況

学生の受け入れ方針について、アドミッションポリシーなどにより明確にされている。学生募集および入学者選抜も適切に行われており、定期的に検証されている。

また、入学定員が適切に設定され、入学定員に対する在籍学生数についても適切な比率が保たれている。

しかしながら、入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準、および障がいのある学生の受け入れ方針については明示していない。

① 効果が上がっている事項

アドミッションポリシーなどにより学生の受け入れ方針を明示・公開し、公正かつ適切な学生募集および入学者の選抜を行うことで、ある程度受け入れ方針に従った学生が入学しており、学部の教育方針・目的に沿った人材育成が可能になっている。

② 改善すべき事項

入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準、および障がいのある学生の受け入れ方針の明示・公開を検討する必要がある。

3. 将来に向けた発展方策

① 効果が上がっている事項

アドミッションポリシーをはじめとした学生の受け入れ方針や公正な学生募集および入学者選抜は明示・公開されているが、今後より多様な学生に対応できる制度を設定するための検討を継続する必要がある。

② 改善すべき事項

入学にあたり修得しておくべき知識などの内容・水準、および障がいのある学生の受け入れ方針について検討する必要がある。

4. 根拠資料

5-1 『東海大学 HP アドミッションポリシー』

http://www.u-tokai.ac.jp/about/philosophy_history/concept/admission_policy.html

5-2 『東海大学 HP 受験生の方』

http://www.u-tokai.ac.jp/prospective_students/

5-3 『東海大学入試情報』

5-4 『東海大学入学試験要項』

5-5 『東海大学 HP 学生数（2014年度大学在学者数一覧）』

http://www.u-tokai.ac.jp/about/profile/num_student/

5-6 『文部科学省 大学設置審査基準要項』

http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/t20010330001/t20010330001.html

5-7 『大学基準協会「改善報告書検討結果（東海大学）」』

5-2-7 国際文化学部

1. 現状の説明

(1) 学生の受入れ方針を明示しているか。

本学部の学生の受入れ方針（アドミッションポリシー）については、「大学案内」、「入学試験要項」に記載しており、本学オフィシャルサイトにおいても掲載し、広く周知を図っている。

また、「入学試験要項」において、出願資格を設定し本学部の期待する知識の内容及び水準について明示している（根拠資料5-1）。また、本学オフィシャルサイトにおいても同様に掲載しており、近年導入したインターネット出願での受験生にも対応している。

障がいを持つ学生については、大学として、受験及び修学上特別の配慮を必要とする場合は、入学試験要項にて、出願前に申し出るように注意喚起を行っている（根拠資料5-1）。申し出のあった学生については、大学が文書にて本人の希望と本学全体及び本学部の配慮内容とのすり合わせを行い、配慮内容について合意の上で出願を認めている。

(2) 学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

学生の受入れ方針に基づき、一般入試、センター試験利用入試、公募制推薦入試、指定校推薦入試、AO入試、留学生入試など多様な学生を募集するため、様々な入試制度を設けている（根拠資料5-2）。

学生募集方法、入学者選抜方法の周知については、「入学試験要項」、「入試情報」、本学オフィシャルサイトでの周知に加え、本学主催の高校教員向け説明会、高等学校での説明会、業者主催の進学相談会、オープンキャンパスでの個別相談等で本学部の学びの特色や所属教員の教育研究内容に関する情報提供に努めている（根拠資料5-3）。

本学部の入学試験における出願手続方法、試験上の注意、合格発表、入学手続方法については「入学試験要項」に記載している（根拠資料5-2）。

本学部の選抜方法や選考方法については、「入学試験要項」において、学科試験、小論文、面接試験、専門・実技試験や調査書がどのように評価され合否判定に用いられるか明示している（根拠資料5-2）。

本学部の入学試験の結果については、本学オフィシャルサイト及び「入試情報」に記載している。

(3) 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

2015年度入試における本学部への入学者数は、入学定員260名に対し、202名であり、定員充足率は77.7%であった（根拠資料5-4）。特に、デザイン文化学科への入学者数は38名にとどまり、入学定員に対する充足率は54.3%に過ぎない（根拠資料5-4）。

本学部は2012年度に改組を行い、当該年度よりそれまでの2学科体制から3学科体制と改組した。入学定員充足率は、2012年度入学生の98.8%から2015年度（2014年度入試）には77.7%へと減少した（根拠資料5-4）。特に、2012年度に新設したデザイン文化学科の入学者が2012年度の67名から2015年度には38名へと大幅に減少した（根拠資料5-4）。

(4) 学生募集および入学者選抜は、学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施さ

れているかについて、定期的に検証を行っているか。

学生の受入れ方針が適切に運用されているかについては、入学早々に実施される基礎学力テスト（英語、国語）の成績に基づき、入学者の基礎学力レベルをチェックし、学部のアドミッションポリシーの検討を行っている。

2. 点検・評価

評定 C

基準5の充足状況

学生の受入れ方針について適切に公開しており、透明性も確保できているが、収容定員を満たせていないため、定員が適正に管理されていない。

① 効果が上がっている事項

アドミッションポリシーについては、「入試要項」や本学オフィシャルサイトを通じ広く公開されており、本学を志望する学生に適切に提示されていると評価できる。

学生募集、入学者選抜については、「入学試験要項」、「入試情報」にて適切に情報提供を行っており、また、その周知についても入学センターの職員だけでなく、学内各部署の協力によって選抜された入学アドバイザーが積極的に広報活動を展開しており、適切な周知ができているものと評価できる。

② 改善すべき事項

本学部設置の3学科のうち、2学科は収容定員を充足できておらず、教育課程及び学生募集活動の早急な改善が求められる。特に、受験生のニーズに合った教育課程の整備や進学する可能性の高い受験生を対象を特定した戦略的な広報活動の実践が急務である。同時に、収容定員が受験生の数に対して適正であるかどうかを検討し、収容定員数が受験生の数に比して適切でない場合にはこれを見直す必要がある。

3. 将来に向けた発展方策

① 効果が上がっている事項

- 1) 資格教育課程の充実により、学費に対して得られる価値を明確にすることにより、受験生の増加を目指す。
- 2) 海外派遣留学やデザイン部門での受賞など、本学部による教育の成果を高校に伝える教育広報を充実し、高校との信頼関係を構築する。
- 3) 就職率ばかりでなく、大学院進学率や本人の希望に沿った進路決定が可能になるようキャリア教育を充実させることにより、キャリアサポートに強い学部としての評価を獲得する。

② 改善すべき事項

- 1) 定員充足率が著しく低い学科については教育リソースの再結合を検討する。
- 2) 学科の分野を見直し、入学定員と教員数の適正化を図る。
- 3) 推薦系入試に偏重した構造を見直し、学力系入試の受験生を増加させるため、海外留学の充実、全国規模でのキャリア支援等、東海大学のスケールメリットに基づく魅力を提示することにより、入学難易度以上の付加価値を受験生にアピールする。

4. 根拠資料

根拠資料 5-1：「東海大学大学案内 2014」

根拠資料 5-2：「東海大学入試情報 2014」

根拠資料 5-3：「東海大学国際文化学部ガイドブック」

根拠資料 5-4：「入学者数関連資料」（東海大学札幌教学課入学広報担当作成）

5-2-8 理学部

1. 現状の説明

(1) 学生の受け入れ方針を明示しているか。

理学部及び各学科（数学科、情報数理学科、物理学科、化学科）の学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）は、本学ホームページ、大学案内、学科案内で公開されている。

(2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

一般入試、AO入試、付属校推薦、指定校推薦、公募推薦入試、留学生入試を行い、学部・学科のアドミッション・ポリシーに基づき、公正かつ適切に入学者選抜を行っている。2014年度入学者のうち各選抜方式で合格したものの割合（％）は、下表の通りであった。

	一般入試	AO入試	付属校推薦	指定校推薦	公募推薦入試	留学生入試
数学科	61.6	5.8	25.6	1.2	4.7	1.2
情報数理学科	29.1	10.5	52.3	3.5	4.7	0.0
物理学科	70.2	9.5	11.9	1.2	7.1	0.0
化学科	59.8	9.8	19.5	3.7	4.9	2.4
理学部全体	55.0	8.9	27.5	2.4	5.3	0.9

(3) 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

ここ5年間の定員充足率は、理学部全体で1.06から1.25（数学科1.05から1.24、情報数理学科1.08から1.25、物理学科1.05から1.31、化学科1.03から1.35）であり、学科によって上下動はあるものの理学部全体としては適切に管理されている。

(4) 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

理学部主任会で定期的に検証を行っており、選抜方式毎の入学定員などの見直しを行っている。

2. 点検・評価

評定 A

基準5の充足状況

学生の受け入れ方針は、本学ホームページ等で公開されている。定員充足率は、理学部全体としては適切に管理されている。

① 効果が上がっている事項

いずれの学科も定員充足率は1を超えている。また、2011年度は理学部全体で1.25であったが、年々適正值である定員数に近づくよう調整を行い、2014年度は1.06となっている。

② 改善すべき事項

各選抜方式での入学者の割合は、理学部全体では適正であると考えているが、付属校推薦での入学者の割合が5割を超えている学科がある。

3. 将来に向けた発展方策

① 効果が上がっている事項

中途退学者が出ることを考慮すると、現在の定員充足率が適正であると考えられるので、合格判定を慎重に行い現在の定員充足率を維持する。

② 改善すべき事項

付属校推薦での入学者の割合が5割を超えないよう、入学者選抜を厳しく行うとともに、特定の学科に志願者が集中しないように付属校に協力を求める。

4. 根拠資料

5-1 東海大学ホームページ（アドミッション・ポリシー）

http://www.u-tokai.ac.jp/about/philosophy_history/concept/admission_policy.html

5-2 学科案内 2015（数学科、情報数理学科、物理学科、化学科）

5-3 大学案内 2015

5-4 2014 年度教育研究年報 大学基礎データ 新表 3

5-2-9 情報理工学部

1. 現状の説明

(1) 学生の受入れ方針を明示しているか。

学生の受入れ方針(アドミッションポリシー)については、学部全体は「大学案内」、「入学試験要項」に記載している。また、本学オフィシャルサイトにおいては学部学科毎に掲載し、広く周知を図っている。

「入学試験要項」において、出願資格を設定し各学部・学科の期待する知識の内容および水準について明示している。また、本学オフィシャルサイトにおいても同様に掲載しており、近年導入したインターネット出願での受験生にも対応している。

障がいを持つ学生については、全学的な方針に基づき、出願前の申し出を受け、本学・学部・学科で可能な配慮内容について説明し、合意の上で出願を認めている。

(2) 学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

学生の受入れ方針に基づき、一般入試、センター試験利用入試、公募制推薦入試、指定校推薦入試、A0入試、留学生入試など本学で設けている様々な入試制度を通じて募集と選抜を行っている。

学生募集方法、入学者選抜方法の周知については、「入学試験要項」、「入試情報」、本学オフィシャルサイト、オープンキャンパスでの個別相談、「留学フェア」への参加、日本語学校への広報など、大学が発行・実施する施策への参加・協力だけでなく、学部学科独自のWebサイトやパンフレット（「情報科学科 おもしろ研究室」、「コンピュータ応用工学科 研究案内&トピックス」）、SNS（学部、学科 facebook）を通じてそれら施策への案内も行っている。

入試制度の策定から試験実施における検討事項や改善要求については、学部代表委員一名が入試企画専門委員会に委員として参加し検討を行っている。

入学者選抜における透明性は、大学全体として「入学試験要項」で選抜方法や選考方法を明示し、本学オフィシャルサイトおよび「入試情報」に入試結果を記載することで確保している。

(3) 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

教育研究年報基礎データの表14にあるとおり、学部としての定員充足率は、2009年度から2014年度までで0.81から1.10に推移しており、2011年度以降は定員を安定かつ適切に充足している。特に、コンピュータ応用工学科の定員充足率は2009年度の0.60から毎年順調に改善し、2013年度は1.09と学科単独での定員充足を達成した。

(4) 学生募集および入学者選抜は、学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

入学センターによる入学後の追跡調査の結果を指定校の選定、A0入試・公募制推薦での選抜における参考資料としている。

2. 点検・評価

評定 A

基準5の充足状況

学生の受入れ方針について適切に公開しており、透明性も確保できている。また、定員充足率についても順調に改善し、学部として2011年度以降は適正な状態を維持できている。以上のように学生の受入れに関する基準をほぼ達成している。

① 効果が上がっている事項

学生募集に関して、大学公式Webサイトへの継続的なニュース記事の掲載、学科独自のWebサイトやパンフレット、およびSNS（facebook）を用いた積極的な広報を行い、定員の充足だけでなく、志願者数の大幅増を実現している（全入試種別総計で、2009年度671人、2014年度1,636人）。

② 改善すべき事項

学部として志願者数の増加、安定的な定員充足を達成しているが、より優秀な入学者を選抜するには、さらに志願者数を増加させる必要がある。特にコンピュータ応用工学科は2013年度から入学者の定員充足は達成しているが、一般入試での志願者数をさらに増やすことで入学者レベルの向上が期待できる。また、情報系学部としては女子学生比率（2014年度10.5%）がやや低いので、女子志願者を増やすための施策も必要と考える。

3. 将来に向けた発展方策

① 効果が上がっている事項

積極的な広報活動を継続させ、さらなる志願者の増加を目指す。また、人数だけでなく勉学意欲の高い志願者を集めるために、魅力ある研究成果の発信にも注力する。

② 改善すべき事項

コンピュータ応用工学科の志願者増のため、コンピュータシステムやロボットといった、学科の特徴的な教育研究分野の広報強化を行う。また、女子志願者増に向けて、これまで継続して行っている女子在学生向けイベントの開催とその広報に加えて、活躍する在学生や卒業生の紹介などロールモデルの提示も有効と考える。

4. 根拠資料

5-1 「東海大学 大学案内 2014」

5-2-1 「2014 年度東海大学入学試験要項 アドミSSIONズ・オフィス入学試験（学科課題型）」

5-2-2 「2014 年度東海大学入学試験要項 スポーツ・音楽優秀者アドミSSIONズ・オフィス入学試験」

5-2-3 「2014 年度東海大学入学試験要項 同窓会アドミSSIONズ・オフィス入学試験」

5-2-4 「2014 年度東海大学入学試験要項 公募制推薦入学試験」

5-2-5 「2014 年度東海大学入学試験要項 指定校推薦入学試験」

5-2-6 「2014 年度東海大学入学試験要項 一般入学試験・センター利用入学試験」

5-3 「東海大学オフィシャルサイト 入試情報」

http://www.u-tokai.ac.jp/prospective_students/admission_app/

- 5-4 「東海大学オフィシャルサイト アドミッションポリシー 学部」
http://www.u-tokai.ac.jp/about/philosophy_history/concept/admission_policy.html
- 5-5-1 「情報科学科 web サイト」
<http://www.ds.u-tokai.ac.jp>
- 5-5-2 「コンピュータ応用工学科 web サイト」
<http://www.da.u-tokai.ac.jp>
- 5-5-3 「情報理工学部 facebook ページ」
<https://www.facebook.com/info.sci.tech.tokai>
- 5-5-4 「情報科学科 facebook ページ」
<https://www.facebook.com/info.sci.tokai>
- 5-5-5 「コンピュータ応用工学科 facebook ページ」
<https://www.facebook.com/ace.tokai>
- 5-5-6 「情報科学科 おもしろ研究室」
- 5-5-7 「コンピュータ応用工学科 研究案内&トピックス」
- 5-6 「東海大学 2014 年度教育研究年報 基礎データ」

5-2-10 情報通信学部

1. 現状の説明

(1) 学生の受入れ方針を明示しているか。

学生の受入れ方針（アドミッションポリシー）については、情報通信学部全体は「大学案内」、「入学試験要項」、「情報通信学部 Campus Guidebook」に記載しており、各学科はそれぞれの「学科案内（学科パンフレット）」に記載している。また、本学オフィシャルサイトにおいて学部全体ならびに学科毎の受入れ方針を掲載し、広く周知を図っている。

「入学試験要項」において、出願資格を設定し情報通信学部の期待する知識の内容及び水準について明示している。また、本学オフィシャルサイトにおいても同様に掲載しており、近年導入したインターネット出願での受験生にも対応している。

障がいを持つ学生については、受験及び修学上特別の配慮を必要とする場合は、「入学試験要項」にて、出願前に申し出るように注意喚起を行っている。申し出のあった学生については、文書にて本人の希望と本学の配慮内容のすり合わせを行い、配慮内容について合意の上で出願を認めている。

(2) 学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

情報通信学部では、大学が定めた学生の受入れ方針に則り、多様な学生を募集するため、一般入試、センター試験利用入試、公募制推薦入試、指定校推薦入試、AO入試、留学生入試など、様々な入試制度を設けている。

学生募集方法、入学者選抜方法の周知については、「入学試験要項」、「入試方法」、本学オフィシャルサイトでの周知に加え、大学主催の高校教員向け説明会、高等学校での説明会等に本学部所属の教職員が出向く、あるいは高輪校舎でのオープンキャンパス開催の際に個別相談の機会を設けるなどして情報提供に努めている。

留学生については、本学のオフィシャルサイトの英字サイト、「留学フェア」への参加、日本語学校への広報を行い、本学部の学生募集方法と入学者選抜方法の周知を行っている。

大学全体として、入試制度の策定から試験実施おける検討事項や改善要求について、各学部・大学院より選出された委員で構成される入試企画専門委員会を組織し、学部入試及び大学院入試について検討を行っている。本学部からも上記の委員会に委員を選出し、入試についての検討に参加している。この委員会で決定した事項は上位組織の入試企画委員会にて検討され、最終的な承認を得ている。また、大学全体として、広報活動についても各学部・大学院より選出された委員で構成される常任広報委員会にて検討及び承認を行っている。本学部からも上記の委員会に委員を選出し、広報活動の検討・承認に参加している。

「入学試験要項」において本学部の入学試験における出願手続方法、試験上の注意、合格発表、入学手続方法について記載している。特に出願手続については入試制度毎に必要な書類が異なるため、書類の種別、提出期限について詳細に記載している。

選抜方法や選考方法については、「入学試験要項」において、学科試験、小論文、面接試験、調査書がどのように評価され合否判定に用いられるか明示している。

各入学試験の結果については、本学オフィシャルサイトならびに「入試情報」に記載し

ている。また、「入試情報」に出願状況の他、得点率や出題者からのアドバイスなども掲載し、本学部を志望する学生に有益な情報を提供しつつ透明性も確保している。

（3）適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

情報通信学部では、各学年の定員を、各学科80名、学部全体の定員を320名と設定している。この数値は、本学部のある高輪校舎施設の収容能力ならびに学部の教員体制の制約のもとで一定レベル以上の教育サービスを継続して提供できることを念頭に置いて設定されたものである。教育研究年報基礎データの表13にあるとおり、ここ5年間の定員充足率は1.09から1.20となっており、大学全体の定員充足率（1.02から1.08）に対してやや高止まりの傾向にあるものの、おおむね適切に管理されている。

本学部における入学者数の定員超過については、各入学試験における合否判定を厳正に行い、入学手続者数の予測精度を上げ定員超過を防ぐ施策をとっている。

（4）学生募集および入学者選抜は、学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

学生の受入れ方針が、適切に運用されているかについて入学後の追跡調査を入学センターにて行っている。その結果を踏まえ、入試制度の改革や指定校選定の資料等に活用している。これらは大学全体の活動として行っている。

2. 点検・評価

評定 A

基準5の充足状況

学生の受入れ方針について適切に公開しており、透明性も確保できている。また、収容定員の管理についても、適正に管理されており、学生の受入れに関する基準をほぼ達成している。

① 効果が上がっている事項

本学部の受入れ方針については、「入学試験要項」や本学オフィシャルサイトを通じて広く公開されており、本学部を志望する学生に適切に提示されていると評価できる。

本学部の学生募集、入学者選抜については、「入学試験要項」にて各入学試験における出願手続き方法、選抜方法や選考方法などを詳細に記載し、「入試情報」にて各入学試験の結果や出願状況などを記載しており、これらにより本学部を志望する学生に適切に情報提供ができていると評価できる。また、入学センター職員だけでなく、本学部教職員も積極的に広報活動に参画しており、適切な周知ができているものと評価できる。

本学部では定員充足率が1.09から1.20とおおむね適切に管理できている。

本学部から選出した委員も参加する入試企画専門委員会、入試企画委員会、常任広報委員会などの各会議体において、学生募集、入学者選抜に公平性や適切性について、大学全体としての検討を行っている。ここでの決定を踏まえ、次年度の入試制度改革や新規広報企画の策定等の改善が行われ、検証の仕組みが機能していると評価できる。本学部からの委員はこれらの活動に参画している。

② 改善すべき事項

情報通信学部のアドミッションポリシーは、各種の印刷物や本学オフィシャルサイトを通じて広く公開されている。しかし、入学後の学生の中に、在学中に進路変更を希望して、

あるいは勉学意欲を無くすなどして、中途退学するものが毎年若干名いるという事実がある。本学部での勉学内容を十分に理解しないままに入学する、いわゆるミスマッチの問題である。このようなミスマッチが起きないように、アドミッションポリシーならびにカリキュラムポリシーを、より一層わかりやすく伝える努力をする必要がある。

3. 将来に向けた発展方策

① 効果が上がっている事項

大学入試センター試験利用入学試験の後期日程でのみ実施していたインターネット出願を前期日程にも適用することで、本学を志望する学生の利便性向上を目指す。インターネット出願は時間や距離に左右されないため、本学部を志望先候補に加えていなかった学生への訴求効果は高いと思われる。また、多様な学生を確保することができるため、本学部を志望する学生の首都圏地区偏在の解消にも有効であると考えられる。今後は他の試験制度への拡充を行い、本学部の地方学生への周知の一助としたい。

② 改善すべき事項

本学部では2017年度にカリキュラム改定が行われる計画であり、改定されたカリキュラムポリシーに合わせてアドミッションポリシーを再検討・改定する必要がある。

4. 根拠資料

- 5-1 東海大学 大学案内 2014
- 5-2 東海大学 入試情報 2014
- 5-3 2014年度東海大学 情報通信学部 Campus Guidebook
- 5-4-① 2014年度東海大学学科案内 情報通信学部 情報メディア学科
- 5-4-② 2014年度東海大学学科案内 情報通信学部 組込みソフトウェア工学科
- 5-4-③ 2014年度東海大学学科案内 情報通信学部 経営システム工学科
- 5-4-④ 2014年度東海大学学科案内 情報通信学部 通信ネットワーク工学科
- 5-5-① 2014年度東海大学入学試験要項 アドミSSIONズ・オフィス入学試験（学科課題型）
- 5-5-② 2014年度東海大学入学試験要項 同窓会アドミSSIONズ・オフィス入学試験
- 5-5-③ 2014年度東海大学入学試験要項 公募制推薦入学試験
- 5-5-④ 2014年度東海大学入学試験要項 指定校推薦入学試験
- 5-5-⑤ 2014年度東海大学入学試験要項 一般入学試験・センター試験利用入学試験
- 5-6 東海大学オフィシャルサイト 入試情報
http://www.u-tokai.ac.jp/prospective_students/admission_app/
- 5-7 東海大学オフィシャルサイト 学部・学科の入学者受け入れの方針
http://www.u-tokai.ac.jp/about/philosophy_history/concept/admission_policy.html
- 5-8 東海大学 2014年度教育研究年報 基礎データ

5-2-1-1 工学部

1. 現状の説明

(1) 学生の受け入れ方針を明示しているか。

工学部の学生受け入れ方針（アドミッションポリシー）については、「大学案内」¹⁾ならびに「入学試験要項」²⁻⁹⁾、受験生向けの「学科案内（工学部各学科専攻）」¹⁰⁾に記載しており、また、広報・周知を企図して本学オフィシャルサイト¹¹⁾にも掲載している。「入学試験要項」において出願資格を設定し、工学部各学科専攻が期待する知識の内容および水準について明示すると共に、本学オフィシャルサイトにも同様に掲載している。さらに、近年導入したインターネット経由で出願する受験生にも対応している。

障がいを持つ学生について、受験および修学上特別な配慮を必要とする場合には、「入学試験要項」にて『出願前に申し出る』ように注意を喚起している。なお、申し出のあった場合には文書にて本人の希望と本学の配慮内容のすりあわせを行い、配慮内容について合意の上で出願を認めている。

(2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

学生の受け入れ方針に基づき、一般入試、センター試験利用入試、公募制推薦入試、指定校推薦入試、A0（アドミッションズ・オフィス）入試、留学生入試など、多様な学生を募集するため、様々な入試制度を設けている。

学生募集方法、入学者選抜方法については、「入学試験要項」、「入試情報」¹²⁾、本学オフィシャルサイトでの周知に加え、本学主催の高校教員向け説明会、高等学校での説明会、入試関連業者や予備校主催の進学相談会、さらにオープンキャンパス時の個別相談等で情報提供に努めている。これらの説明については、入学センター職員を中心に大学内の事務部署から入試アドバイザーを選出し対応している。

留学生については、本学オフィシャルサイトの英字サイト、「留学フェア」への参加、日本語学校への広報・周知を行っている。

入試制度の策定から試験実施における検討事項や改善要求について、工学部では学部委員を選出して全学的な入試企画専門委員会にて入試に関する検討を行っている。なお、この委員会で決定された事項は上位組織の入試企画委員会にて検討され、最終的な承認を得ている。また、広報活動についても工学部では広報委員会ならびにその代表として常任広報委員を選出して、常任広報委員会にて検討および承認がなされている。

「入学試験要項」には入学試験における出願手続き方法をはじめ試験上の注意、合格発表、入学手続き方法について記載している。特に出願手続きについては入試制度毎に必要な書類が異なるため、書類の種別、提出期限について詳細に記載している。また、試験実施においては試験当日に持参できるものや不正行為への対処等についても記載している。これらの措置によって、学生の受験時の不安低減に努めている。

各入学試験結果については、本学オフィシャルサイトをはじめ「入試情報」に記載している。特に「入試情報」には出願状況の他、得点率や出題者からのアドバイスなども掲載し、工学部各学科専攻を志望する学生へ有益な情報を提供しつつ透明性も確保している。

(3) 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき

適正に管理しているか。

教育研究年報の大学基礎データ表 13³³⁾に示すとおり、工学部の2011～2014年度の定員充足率は1.02～1.10で推移しており、学科専攻単位での変動はあるものの適切に管理されている。なお、外部認証機関より土木工学科の定員充足率が低いという指摘を受けている。しかし、近年では学科（教員）の努力により徐々にではあるが充足率が向上してきた。

入学者数の定員超過については、各入学試験における合否判定を厳正に行い、入学手続者数の予測精度を上げ定員超過を防ぐ施策をとっている。また、未充足を防ぐために補欠合格を行うことで欠員の回避を行っている。

（4）学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

学生の受け入れ方針が適切に運用されているか、入学後の追跡調査を入学センターにて行っている。この結果を踏まえ、入試制度改革や指定校推薦入試における指定校選定の資料等に活用している。

2. 点検・評価

評定 A

基準5の充足状況

学生の受け入れ方針（アドミッションポリシー）について適切に公開しており、透明性も確保できている。また、各学科専攻定員についても適正に管理されており、学生の受け入れに関する基準をほぼ達成している。

① 効果が上がっている事項

学生の受け入れ方針（アドミッションポリシー）については、「大学案内」や「入学試験要項」、「学科案内（工学部各学科専攻）」や本学オフィシャルサイトを通じて広く公開されており、本学を志望する学生に適切に呈示されていると評価できる。なお、留学生の募集に関して、工学部では在学生や卒業生が各国大使館における進学相談会などに出向き、体験講話ならびに受験相談を行ったことで一時的ではあるが受験生が劇的に増加した学科がみられた。

学生募集や入学者選抜については、「入学試験要項」や「入試情報」にて適切に情報提供を行っており、また、その周知についてはオープンキャンパス時に各学科専攻の教員が詳細に説明している。この他、入学センターの職員のみならず学内各部署の協力によって選抜された入学アドバイザーも広報活動を展開している。

工学部の2011～2014年度の定員充足率は1.02～1.10と適切に管理できている。これらの結果は入試企画専門委員会や入試企画委員会、常任広報委員会などの各会議体にて、学生募集や入学者選抜の公平性や適切性について検討が行われ、ここでの決定を踏まえ、次年度の入試制度改革や新規広報企画の策定等の改善が図られ、これより検証の仕組みが十分機能していると評価できる。

よって、これら現状が維持的な状況にあるとみなせば評定はAが妥当である。

② 改善すべき事項

学生募集や入学者選抜などの広報活動について、入学センターのみならず学内各部署より選抜された入学アドバイザー（職員）が活動しているが、訪問を受ける高等学校側では「アドバイザー（職員）の説明内容が冊子体の情報と変わらず効果がない」、「入学後の生

徒の詳しい情報が聞けない」、「現場で教授していない方には学科専攻の詳細が説明できない」、等の意見や問題点が挙がっており、入学アドバイザー（職員）と教員が協同して入試広報にあたる必要があることが顕在化している。

3. 将来に向けた発展方策

① 効果が上がっている事項

大学としてはインターネット出願をはじめ複数受験日選択による受験料低減措置など、本学を志望する学生の利便性を向上した結果、確実に入学者数を増やすことができた。また工学部各学科専攻においては大学企画のオープンキャンパスにおいて学科専攻教員が在学生（学部・大学院生）等の協力を得て活発に体験授業や体験実験等を行っている。さらに工学部として「工学部スタンプラリー」を企画して、各学科専攻の活動をサポートしている。

② 改善すべき事項

前述したように、学生募集や入学者選抜などの広報活動について入学アドバイザー（職員）と教員が協同して入試広報にあたる必要がある。また、他大学を意識して数多くのオープンキャンパスが実施されているが、オープンキャンパス当日への対応には事前の周知の準備が必要である。工学部各学科専攻の教員らは（もちろん他学部他学科の教員も）、学生募集活動も給料の内と考えて、自らの休日を返上して無給で任に当たっている。しかし、教育・研究活動で多忙を極める教員の負担増は考慮されていない。そこで今後、オープンキャンパス実施日程（日数）やその在り方なども検討すべきと思われる。

4. 根拠資料

- 1) 東海大学大学案内 2014
- 2) 2015 年度東海大学入学試験要項「アドミッションズ・オフィス入学試験（学科課題型）」
- 3) 2015 年度東海大学入学試験要項「スポーツ・音楽優秀者アドミッションズ・オフィス入学試験」
- 4) 2015 年度東海大学入学試験要項「同窓会アドミッションズ・オフィス入学試験」
- 5) 2015 年度東海大学入学試験要項「公募制推薦入学試験」
- 6) 2015 年度東海大学入学試験要項「指定校推薦入学試験」
- 7) 2015 年度東海大学入学試験要項「一般入学試験・センター試験利用入学試験」
- 8) 2015 年度東海大学入学試験要項「工学部航空宇宙学科航空操縦学専攻入学試験」
- 9) 2015 年度東海大学入学試験要項「スポーツ優秀者特別入学試験」
- 10) 東海大学学科案内 2015（工学部各学科専攻）
- 11) 東海大学オフィシャルサイト（入試情報）
http://www.u-tokai.ac.jp/prospective_students/admission_app/
- 12) 東海大学入試情報 2014
- 13) 東海大学教育研究年報 2013（大学基礎データ表 13（2014 年度））

5-2-1-2 基盤工学部

1. 現状の説明

（1）学生の受入れ方針を明示しているか。

学生の受入れ方針（アドミッションポリシー）については、学部全体は「大学案内」、「入学試験要項」に記載している。また、本学オフィシャルサイトにおいて学部毎に掲載し、広く周知を図っている。「入学試験要項」において出願資格を設定し、学部の期待する知識の内容及び水準について明示している。また、本学オフィシャルサイトにおいても同様に掲載しており、近年導入したインターネット出願での受験生にも対応している。

障がいのある学生については、受験及び修学上特別の配慮を必要とする場合は、「入学試験要項」にて、出願前に申し出るように注意喚起を行っている。申し出のあった学生については、文書にて本人の希望と本学の配慮内容のすり合わせを行い、配慮内容について合意の上で出願を認めている。

（2）学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

学生の受入れ方針に基づき、多様な学生を募集するため、一般入試、センター試験利用入試、公募制推薦入試、指定校推薦入試、AO入試、留学生入試等の様々な入試制度を設けている。

学生募集方法、入学者選抜方法の周知については、「入学試験要項」、「入試情報」、本学オフィシャルサイトでの周知に加え、本学主催の高校教員向け説明会、高等学校での説明会、業者主催の進学相談会、オープンキャンパスでの個別相談等において、入学広報課と学部学科で協力して情報提供に努めており、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っている。

各入学試験の結果については、本学オフィシャルサイト及び学部については「入試情報」に記載している。特に学部については「入試情報」に出願状況の他、得点率や出題者からのアドバイスなども掲載し、本学を志望する学生に有益な情報を提供しつつ透明性も確保している。

（3）適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

過去2年間の基盤工学部の定員充足率は0.95と若干ではあるが定員を満たしていない。学科別では、医療福祉工学科は2年間の平均定員充足率は定員を確保しているが、電気電子情報工学科は0.80で定員を下回っている。未充足を解消するために、オープンキャンパスの充実、ターゲットを絞った高校訪問、高校への出前授業、高校生への体験授業やインターンシップ対応、工業高校や理数科のある高校との高大連携イベント、SPP, SSH等の高校のサイエンス系のプログラム支援、小中学校向けの科学の広場やものづくり教室等の活発な学外活動の他、学科教員の研究活動のPR等を行い、学科認知度を高めることによって、定員充足できるよう努力を重ねている。

（4）学生募集および入学者選抜は、学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

学生の受入れ方針が、適切に運用されているかについて、それぞれの入試制度毎に入学

後の追跡調査を行っている。その結果を踏まえ、入試制度の改革や指定校選定の資料等に活用している。

2. 点検・評価

評定 B

基準5の充足状況

学生の受け入れ方針について適切に公開しており、透明性も確保できている。また、収容定員の管理についても、適正に管理されており、学生の受け入れに関する基準をほぼ達成している。ただし、2015年度入試において、基盤工学部は定員を満たすことができなかった。

① 効果が上がっている事項

アドミッションポリシーについては、「入試要項」や本学オフィシャルサイトを通じ広く公開されており、本学部を志望する学生に適切に提示されていると評価できる。

学生募集、入学者選抜については、学部教員全員がオープンキャンパス、各種大学説明会、高校からの要請による模擬授業、体験授業に積極的に関与している点は評価できる。

② 改善すべき事項

電気電子情報工学科は定員確保ができていない状況であり、定員確保に向けて、新たな学生募集の方法を検討する必要がある。医療福祉工学科については、入試偏差値を上げるために、学力選抜試験の志願者を増やす必要がある。

3. 将来に向けた発展方策

① 効果が上がっている事項

2017年度カリキュラム改訂においても、アドミッションポリシーが本学部を志望する学生に浸透するよう広報活動を継続していく。

学生募集については、高校からの要請による模擬授業、工業高校や理数科のある高校との高大連携イベントの支援、SPP, SSH 等の高校のサイエンス系のプログラム支援、小中学校向けの科学の広場やものづくり教室等の活発な学外活動をさらに推進していく必要がある。

② 改善すべき事項

電気電子情報工学科は、外部に対して学科の魅力を伝える努力が不足している可能性があるため、Facebook や学科ホームページをさらに充実させることにより、学科の活動を広く知らしめたい。

医療福祉工学科は臨床工学技士を育成する学科であるが、一般的には未だ臨床工学技士の認知度が低い。熊本県臨床工学技士会と協力して、特に熊本県内の進学校を中心に認知度向上のための説明会や高校訪問を積極的に行うことを検討する。

4. 根拠資料

5-1 東海大学 大学案内 2014（大学共通）

5-2 東海大学 入試情報 2014（大学共通）

5-4 2014年度東海大学入学試験要項 アドミSSIONズ・オフィス入学試験
（学科課題型）（大学共通）

5-5 2014年度東海大学入学試験要項 アドミSSIONズ・オフィス入学試験
（適正面接型）（大学共通）

- 5-6 2014年度東海大学入学試験要項 同窓会アドミッションズ・オフィス入学試験
（大学共通）
- 5-7 2014年度東海大学入学試験要項 公募制推薦入学試験（大学共通）
- 5-8 2014年度東海大学入学試験要項 指定校推薦入学試験（大学共通）
- 5-9 2014年度東海大学入学試験要項 一般入学試験・センター試験利用入学試験
（大学共通）
- 5-10 東海大学オフィシャルサイト 入試情報（大学共通）
http://www.u-tokai.ac.jp/admission_app/
- 5-11 東海大学オフィシャルサイト アドミッションポリシー 学部」
http://www.u-tokai.ac.jp/about/concept/admission_policy.html
- 5-12 東海大学 2014年度教育研究年報 基礎データ（大学共通）

5-2-13 海洋学部

1. 現状の説明

(1) 学生の受け入れ方針を明示しているか。

学生の受け入れ方針については、大学案内、入学試験要項に記載されており、本学オフィシャルサイトで各学部・学科ごとに掲載している。

(2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

学部学科での学生の入学者選抜が行えるものは、公募制推薦入試、指定校推薦入試、AO入試、留学生入試の4つの選抜についてである。これらの入試については、各学科の受け入れ方針に基づいて、選抜試験が行われている。これらの方針については、それぞれの入学試験要項、東海大学入試情報2015、東海大学オフィシャルサイトで公開し、それに基づき厳正な選抜試験を行っている。学科判定案については、学部長と検討し、学部案として入試センターに提出している。

(3) 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

学部として、定員に基づく学生受け入れについての調整は行っていない。入試センターより各試験での目標合格者数が提示され、それに基づき各学科で前述の4つの選抜試験に挑んでいる。しかしながら、選抜試験を厳格に行うことから目標合格者数に達しないことがある。反対に同点の場合には双方合格させるために、目標数を多少超えて合格になる場合もある。

(4) 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

各学科において、入学形態ごとに学生レベルなどを把握している。これらの状況については、各学科・専攻での会議において情報共有し、前述の4つの選抜試験に関して評価方法などの基準を検討し、翌年に反映させている。

2. 点検・評価

評定 A

基準5の充足状況

受け入れ方針については、適切に公開されており、透明性も確保できている。収容定員については、学部・学科でできる範囲で適正に管理しており、学生受け入れに関する基準をほぼ達成している。

① 効果が上がっている事項

学生受け入れ方針は入試要項や本学オフィシャルサイトを通じて広く公開している。各学科ごとの学びの特徴などについての詳細事項については、学科で作成している東海大学海洋学部案内2014で示すとともに、東海大学海洋学部オフィシャルサイトでも公開している。

② 改善すべき事項

特になし

3. 将来に向けた発展方策

① 効果が上がっている事項

学部・学科レベルでは，特になし

② 改善すべき事項

特になし

4. 根拠資料

5-1 東海大学 大学案内 2014

5-2 東海大学 入試情報 2015

5-3 東海大学海洋学部 学部案内 2014

5-4-① 2014年度東海大学入学試験要項 A0 入学試験（学科課題型）

5-4-② 2014年度東海大学入学試験要項 公募制推薦入学試験

5-4-③ 2014年度東海大学入学試験要項 指定校推薦入学試験

5-5 東海大学オフィシャルサイト 入試情報

http://www.u-tokai.ac.jp/prospective_students/admission_app/

5-6 東海大学オフィシャルサイト アドミッションポリシー 学部

http://www.u-tokai.ac.jp/about/philosophy_history/concept/admission_policy.html

5-7 東海大学海洋学部オフィシャルサイト 学科紹介

<http://www.scc.u-tokai.ac.jp/>

5-2-14 生物学部

1. 現状の説明

（1）学生の受入れ方針を明示しているか。

学生の受入れ方針（アドミッションポリシー）については、「大学案内」、「入学試験要項」に記載している。また、生物学部 HP（ホームページ）において各学科についても掲載し、広く周知を図っている。

障害を持つ学生については、受験及び修上特別の配慮を必要とする場合は、「入学試験要項」中で、出願前に申し出るよう注意喚起を行っている。申し出のあった学生については、文書にて本人の希望と本学の配慮内容のすり合わせを行い、配慮内容について合意の上で出願を認めている。

（2）学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

学生の受入れ方針に基づき、一般入試、大学入試センター試験利用入試、公募制推薦入試、指定校推薦入試、AO入試、留学生入試など多様な学生を受け入れることができる様々な入試制度を設けている。

学生募集方法、入学者選抜方法の周知については、「入学試験要項」、「入試情報」、本学 HP での周知に加え、本学主催の高校教員向け説明会等で情報提供に努めている。これらの説明については、入学センター職員を中心に入学アドバイザーによって行われている。

入試制度の策定から試験実施における検討事項や改善要求については、生物学部選出の委員が各学部・大学院より選出された委員で構成される入試企画専門委員会に出席し、生物学部の所属する学部入試について検討を行っている。また広報活動についても生物学部選出の委員が常任広報委員に出席し、検討及び承認を行っている。

選抜方法や選考法については、「入学試験要項」において、学科試験、小論文、面接試験や調査書がどのように評価され合否判定に用いられるかが明示されている。

各入学試験の結果については、本学 HP 及び冊子体として発行している「入試情報」に記載している。

（3）適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

2014 年度 5 月 1 日現在では、定員充足率は 1.18 であり、年度末には（2014 年第 11 回生物学・生物理工学部合同教授会資料）生物学科 239 名（定員 210 名、定員充足率 1.14）、海洋生物科学 249 名（定員 210 名、定員充足率 1.19）、学部としての定員充足率は 1.16 となり、適切に管理されている。また、学部における定員超過については、各入学試験における合否判定を厳正に行い、入学手続者数の予測精度を上げ定員超過を防ぐ施策をとっている。

（4）学生募集および入学者選抜は、学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

学生の受入れ方針が、適切に運用されているか入学後の追跡調査を入学センターにて行っている。その結果を踏まえ、入試制度改革や指定校選定の資料等に活用している。

2. 点検・評価

評定 S

基準5の充足状況**① 効果が上がっている事項**

アドミッションポリシーについては、「入試要項」や本学オフィシャルサイトを通じ広く公開されており、本学を志望する生に適切に提示されていると評価できる。学生募集、入者選抜については「入学試験要項」、「入試情報」にて適切に情報提供を行っている。生物学部については、年度末定員充足率が1.16であり、適切に管理できている。学力系選抜入試において北海道外からの志願者が多いことは、アドミッションポリシー等が周知されていることの証左と判断でき、また、実質3倍程度の倍率は、学生数確保の要請によらず、適切な入学者選抜が行われていると証左と判断できることを、評定の根拠とした。

② 改善すべき事項

学部・学科の内容、アドミッションポリシーの一層の周知を図る。

3. 将来に向けた発展方策**① 効果が上がっている事項**

北海道外（本州以南）からの入学者が多い（約7割）ことは、全国的に生物学部の認知度が上がっていると評価できる。

② 改善すべき事項

生物学部では、付属高校からの推薦入学者が大学全体で定めた目標より少ない傾向にある。今後は、本学が目指す一貫教育に向けて、各付属高校での学部学科説明会説明会でのアピールを強める。今後も北海道内を始め、全国に向けて生物学部の情報を積極的に発信してゆく。

4. 根拠資料

5 「東海大学大学案内2014」

5 「東海大学入試情報2014」

5 「2014年度東海大学入学試験要項アドミSSIONズ・オフィス入学試験（学科課題型）」

5 「2014年度東海大学入学試験要項スポーツ・音楽優秀者アドミSSIONズ・オフィス入学試験」

5 「2014年度東海大学入学試験要項アドミSSIONズ・オフィス入学試験（適性面接型）」

5 「2014年度東海大学入学試験要項同窓会アドミSSIONズ・オフィス入学試験」

5 「2014年度東海大学入学試験要項公募制推薦入学試験」

5 「2014年度東海大学入学試験要項指定校推薦入学試験」

5 「2014年度東海大学入学試験要項一般入学試験・センター試験利用入学試験」

5 「東海大学オフィシャルサイト入試情報」 http://www.u-tokai.ac.jp/admission_app/

5 「東海大学オフィシャルサイトアドミSSIONポリシー学部」

http://www.u-tokai.ac.jp/about/concept/admission_policy.html

5 「東海大学 2014 年度教育研究年報基礎データ」

5 在籍者数一覧／HP. pdf

http://www.u-tokai.ac.jp/about/profile/num_student/

5-2-15 農学部

1. 現状の説明**(1) 学生の受入れ方針を明示しているか。**

農学部および各学科の学生の受入れ方針（アドミッション・ポリシー）については、大学案内、学部パンフレット、授業要覧、大学ホームページ等の媒体上で明示している。

(2) 学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

学生募集に際して、一般的な入学広報に加え、教員が各高校で行う移動模擬授業、年に4回行われるオープンキャンパスで模擬授業、研究室紹介を実施し、本学部の研究分野、内容を伝える活動を行っている。また、学力による選抜試験以外にも、指定校推薦、一般推薦の推薦入試、A0入試、編転入試を実施しており、求める学生像に適した入学者の選抜を行っている。さらに、過去に出題された入試問題を冊子としてまとめ、入学者選抜における透明性を確保している。

(3) 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

各学科において実験・実習の実施が必須となることを踏まえ、実施が可能な定員として応用植物科学科、応用動物科学科の2学科では80名、バイオサイエンス学科では70名を定員としている。2014年度は各学科ともこの定員を充足し、かつ定員の1.2倍以下の適切な入学者数となっている。また、未充足の学年については編転入試を実施することで対応し、定員の充足を図っている。

(4) 学生募集および入学者選抜は、学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

学生募集に関しては年に4回常任広報委員会を開催している他、学部単位での広報委員会を実施し、学生募集に関する活動を検証している。入学者選抜の結果は月に一度開催される教授会で報告されている。特に指定校推薦では指定校の見直しを行う必要があるため、毎年各学科および学部で検討し、入試結果についても教授会で検証している。

2. 点検・評価

評定 A

基準5の充足状況

本学部の学生の受入状況は、点検・評価項目(1)～(4)に対して十分に対応できている。また、近直3年間は各学科とも受験者数も増加傾向にあり、在籍学生数も定員を充足している。

① 効果が上がっている事項

学生募集活動の一翼を担う、年間に4回（6、7、8、10月）に実施しているオープンキャンパスの参加者が増加していることから、本学部への興味を誘起していると思われる。

② 改善すべき事項

本学部が設置されている熊本県出身学生の割合が、相対的に減少する傾向がみられる。地域貢献を担う研究内容を含むことから、今後、本県出身学生に向けた募集活動を積極的に実施する必要があると思われる。

3. 将来に向けた発展方策**① 効果が上がっている事項**

移動模擬授業、オープンキャンパス等、高校生と直接的に接する機会を持つことで学生募集の効果が上がっていることが推察される。今後はその内容の充実、実施時期の見直し等を検討する。

② 改善すべき事項

次年度以降も今年度とほぼ同一の定員を設定し、募集活動、入学者選抜を実施するが、募集活動と選抜試験の関連性を検証し、適切な内容と開催時期の検討を図る。

4. 根拠資料

5-1 大学案内 2015

5-2 東海大学農学部 2015

5-3 授業要覧 2014

5-4 東海大学ホームページ（理念・憲章）http://www.u-tokai.ac.jp/about/philosophy_history/concept/

5-5 東海大学入試問題集

5-6 常任広報委員会資料

5-7 農学部教授会資料

5-2-16 体育学部

1. 現状の説明

（1）学生の受入れ方針を明示しているか。

体育学部における学生の受け入れ方針（アドミッションポリシー）については、「大学案内」「入学試験要項」に記載しており、本学ホームページにも掲載し、広く周知を図っている。

「入学試験要項」において、本学部の出願資格を設定し、期待する知識及び身体能力の内容や水準について明示している。また、本学ホームページにも同様に掲載しているため、インターネット出願での受験生にも対応している。

障害をもつ学生については、出願前の申し出に応じ、配慮内容等を吟味し、合意の上で出願を認めている。

（2）学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

本学部では、一般入試、公募制推薦入試、A0入試（学科課題型）、SA0入試、留学生入試等多様な学生を募集するために、様々な入試制度を設けている。

学生募集方法、入学者選抜方法の周知については、「入学試験要項」、「入試情報」、本学ホームページでの周知に加え、大学主催の高校教員向け説明会、高等学校での説明会、業者主催の進学相談会、オープンキャンパスでの個別相談等で情報提供に努めている。

入学制度の策定から試験実施における検討事項や改善要求については、入試企画専門委員会に参加し、学部入試の検討を行っている。この委員会での決定事項は上位組織にて検討され、承認を受けている。学生受入れのための広報活動については、常任広報委員会の方針の下、本学部で学科ごとに広報委員を選出し、検討、推進している。

本学部の入学試験における出願手続き方法、試験上の注意、合格発表、入学手続き方法は、「入学試験要項」に記載している。出願手続きについては、入試制度毎に書類が異なるため、詳細に記載している。試験実施に際しては、試験当日の不正行為の対処方法の1つとして、当日の持参物に対しても詳細に記載している。これらの措置により、学生の不安低減に努めている。

選抜方法や選考方法については、「入学試験要項」に、学科試験、小論文、面接試験、専門・実技試験及び調査書がどのように評価され合否判定に用いられるかを明示している。

入学試験の結果については、本学ホームページ及び「入試情報」に記載している。入試情報には出願状況の他、得点率や過去課題の出題を掲載し、本学部を志望する学生に有益な情報を提供しつつ透明性も確保している、

（3）適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

教員研究年報基礎データ表13にあるように、ここ5年間の体育学部の平均定員充足率は1.17となっており、適切に管理されている。

学部における入学者の定員超過については、各入学試験における合否判定を厳正に行い、入学手続き数の予測精度を上げ定員超過を防ぐ施策を講じている。

（４）学生募集および入学者選抜は、学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

体育学部においては、入学センターが実施している「学生の受入れ方針適切化運用についての入学後追跡調査」の結果をもらい、把握している。それを踏まえ、本学部の入試制度の改革・改善に活用している。

2. 点検・評価

評定 S

基準5の充足状況

学生の受け入れについては、順調である。

① 効果が上がっている事項

高校からの出前授業依頼にできるだけ対応していることや、在学生の評判を高めることで、受験希望者を減少させずに維持できている。また競技スポーツで成果を上げていることも大きな要因となっている。

② 改善すべき事項

特になし。

3. 将来に向けた発展方策

① 効果が上がっている事項

2017年度のカリキュラム改編を踏まえてより魅力的な教育内容にし、しっかりと広報することで、より一層本学部の特徴を示して学生を受け入れていく。

② 改善すべき事項

特になし。

4. 根拠資料

5-1 東海大学ホームページ

5-2 大学案内 2016

5-3 入学試験要項 2016年度

5-4 入試情報 2015

5-5 教員研究年報基礎データ表 13

5-2-17 医学部

1. 現状の説明

(1) 学生の受け入れ方針を明示しているか。

東海大学ホームページに、医学部のアドミッションポリシーを掲載し、求める人材像を明示している。

(2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

医学部の入学試験においては、医学部入学試験企画委員会を設置し、アドミッションポリシーを念頭に、適切な受験生・入学生確保を企画検討している。また、合格者判定は全学の入学試験判定委員会において実施しており、恣意的な判定がなされないようなチェック体制がとられている。

(3) 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

入学定員については、文部科学省の指導のもと適切な定員が設定されている。定員に対して欠員が生じないように、入学者数の管理を行っている。在籍学生数については医学教育の特性上、毎年厳密な進級・卒業判定を行う必要があり、留年や卒業不可者が発生しているが、収容定員に対する在籍学生比率は漸減しており、2014年度には1.00となった。

(4) 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

上述のとおり、医学部には入学試験企画委員会を設置し、毎年の入学試験要項を前年度実績などをもとに検討している。2014年度は2016年度入学試験要項について検討し、実施した。基本的に入学試験に関しては医学部入学試験企画委員会を中心に企画・実施・検証を行うが、その議事内容については、医学部協議会・医学部教授会において説明され、承認を受けている。

2. 点検・評価

評定 A

基準5の充足状況

医学部においては2012年度以降、毎年開設以来最高の志願者数を更新しており、2014年2月に実施した一般入学試験においては、5209名という私立医科大学において2番目の志願者数を獲得した。これは受験者から本医学部が、公平かつ適切な入学者選抜が行われているという評価を受けているものとする。

① 効果が上がっている事項

- ・一般入学試験において、補欠者は順位を付与して発表するなど、受験生からも不正な繰り上げがなされていないことが確認できる仕組みを取り入れ、透明性を高めている。

② 改善すべき事項

- ・一般入学試験における科目設定について、英語の偏重が指摘されている。
- ・入学定員に対する入学者比率の超過（超過率1.05）について指摘を受けている。
- ・収容定員に対する在籍学生比率の超過（超過率1.05、1.02）について指摘を受けている。

3. 将来に向けた発展方策**① 効果が上がっている事項**

・学力選抜入試については、従来どおり、一次試験における得点にもとづく合格者判定を継続し、二次試験（面接・小論文）については医師として不適切な人格を持つものを排除する方法として活用する。

② 改善すべき事項

・一般入試における英語の配点を、他の科目（数学・理科）と同様に100点満点に変更する。

・入学定員の超過については、前回の認証評価において指摘された1.05未満を基準に行っている。2013年度において入学辞退者の決裁日が5月2日以降になったため入学者が1.05を超えているが、実際は4月1日付けで入学辞退しており、実質的な入学定員超過は1.05未満を継続しており、今後も大学評価基準として示された入学定員超過を1.05未満とする方針を継続する。

・収容定員の超過については、前回評価時の超過率の解消は単年度では困難であるため、学年の進行とともに2012年度1.05、2013年度1.02、2014年度1.00というように改善している。

4. 根拠資料

- ・2016年度入試要項
- ・医学部入学者数（2012年度～2015年度）
- ・2012年度大学・短大在籍者数
- ・2013年度大学・短大在籍者数
- ・2014年度大学・短大在籍者数
- ・2012年度転学部・転学科試験受入可能人数
- ・2013年度転学部・転学科試験受入可能人数
- ・2014年度転学部・転学科試験受入可能人数

5-2-18 健康科学部

1. 現状の説明

(1) 学生の受け入れ方針を明示しているか。

健康科学部および看護学科・社会福祉学科の学生の受け入れ方針は、大学ホームページに公開され、広く周知をはかっている。またオープンキャンパスにおいて、学部の育成する人材像、学生の受け入れ方針を説明している。

(2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

学生の受け入れ方針に基づき、両学科とも、一般入試、センター利用入試、公募制推薦入試、指定校推薦入試、留学生入試を行っている。社会福祉学科はその他、課題型 A0 入試も行っている。

推薦系、および A0 入試では、学力とともにコミュニケーション能力も評価している。入学者の決定は、推薦系および A0 入試では、学科であらかじめ作成された評価指標にもとづき判定案を作成している。

学生募集に関しては、大学ホームページに掲載するとともに、高校や進学説明会への参加・説明やオープンキャンパスでの入試説明を行っている。

(3) 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

看護学科では、編入学の受験者数が減少していることから、2013 年度から編入学定員を 30 名から 20 名に変更した。それに伴い、1 年次の入学定員を 70 名から 75 名に増やした。しかしながら、編入学試験に関しては、両学科とも受験者数が少なく、定員に達していない。編入学試験の定員の廃止に関して、検討をしている。学力系の入試では、入学センターによる入学手続き者数の予測をもとに合否判定を行っているが、時に予測がはずれ、入学者数が 1.1 倍を超えることがある。2014 年度は、看護学科で予測を上回る手続き率で、入学者数が 1.1 倍を超えてしまった。社会福祉学科では 2014 年度入学者数は 1.09 倍であった。

(4) 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

2014 年度入試の結果について各学科会議で検討し課題を明確化した。志願者数が減少傾向にあり、対策について検討することになった。

看護学科では専門職への動機づけの高い学生を確保するために、公募制推薦入試における面接試験の判定基準について学科会議で討議した。加えて 2015 年度一般 A 入試の出願状況を踏まえ、理科科目の変更を検討した。

2. 点検・評価

評定 A

基準 5 の充足状況

① 効果が上がっている事項

推薦系入試、A0 入試では、学科で評価指標を設け、合否の判定案を作成している。

推薦系入試の面接試験の判定基準、学力系入試の日程や入試科目などにつき、学科会議

等で議論することで問題意識を共有し、問題解決に向けての具体的提案につながっている。

② 改善すべき事項

定員充足率が、1.1 倍を超えることがあるので、入学手続き率の予測精度をあげていくことが必要である。両学科とも、編入学定員を設けているが、受験者数が減少し、定員が満たされていない。

3. 将来に向けた発展方策

① 効果が上がっている事項

推薦系の入学試験の判定基準に関しては、定期的に検証していく。入試形態別に、入学後の成績等を追跡し、その結果を判定基準の見直しや、入試科目に反映させていく。

② 改善すべき事項

編入学定員について、廃止するかどうかを決定していく。

入学者数が、1.09 倍を超過しないよう、手続き率の予測精度をあげていく。

4. 根拠資料

大学ホームページ

大学基礎データ 表 14_学部・学科の学生定員及び在籍学生数

東海大学 入試情報 2014

2014 年度看護学科学科会議 議事録 第 5 回、第 6 回、第 11 回

2014 年度 第 2 回 社会福祉学科運営委員会 議事録

2014 年度 第 9 回 社会福祉学科会議 議事録

5-3 研究科

5-3-1 実務法学研究科

1. 現状の説明

(1) 学生の受入れ方針を明示しているか。

本研究科が求める学生像としては、時代に求められる人間性豊かな法曹を育成することであり、本研究科のホームページ等で明らかにしている。そのため、学則第22条において、「入学することができる者は、学校教育法第102条の規定により、次の各号の一に該当する者とする。」として、「1.(1)学校教育法第83条に定める大学を卒業した者」等と規定し、さらに学則第24条が「本専門職大学院の入学試験に関することは、別に定める。」として、入学要項等に詳細を定めている。

障害のある学生の受け入れについては、特別の規定を設けてはいないが、すでに車椅子で通学する学生を受け入れた実績がある。

(2) 学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

上記、学則に基づいて、公正かつ適切な学生募集と学生選抜を実施している。

(3) 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

本研究科の入学者定員は30名であるが、2013年度の入学試験受験者は20名であり、このうち合格者は7名であった。定員と入学者、在籍学生数において、適正な管理がなされている。

(4) 学生募集および入学者選抜は、学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

2015年度以降募集停止となったが、公正かつ適切に実施されているかどうかについては、入試委員会と教授会において検討を行っている。

2. 点検・評価

評定 A

基準5の充足状況

基準におおむね従っていると思われる。

① 効果が上がっている事項

特になし。

② 改善すべき事項

特になし。

3. 将来に向けた発展方策

① 効果が上がっている事項

特になし。

② 改善すべき事項

特になし。

4. 根拠資料

特になし。

5-3-2 総合理工学研究科

1. 現状の説明

(1) 学生の受け入れ方針を明示しているか。

学生の受け入れ方針（アドミッションポリシー）を下記のように設定している。

“本学の「建学の精神」と、以下に示す本研究科の教育理念・目標を理解し、自ら学ぶ意欲をもった者を国内外から広く受け入れます。

本研究科の教育理念・目標

「世界に向けて情報発信できる高度な研究能力を備え、国際的な広い視野と見識を合わせ持った人間味豊かなリーダーとして活躍し得る人材」の育成”

また、大学院入学試験要項あるいは大学オフィシャルサイトを通して、上記の受け入れ方針のみならず、出願資格を詳細に設定し、修士以上の学力・知識水準を要求していることを明示している。また、全学的には「入学試験要項」「大学院ガイド」等で周知している。研究科ホームページに所属教員の研究内容を一人1枚にまとめた英文和文併記のファイルを公開し、所属教員の研究内容がわかるようにしている。

(2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

一般入学試験のみならず、推薦入試、社会人特別入試、国際方式等による留学生の受け入れなど、様々な入試制度を設けている。場合によっては、入学試験以前に出願資格審査を行い、入学者の学力や研究資質を確保している。入学試験の内容は、研究成果の報告と質疑応答、及び面接試験を行っている。留学生の場合には、面接試験は英語で実施し、本学各キャンパスの修士課程からの入学希望者の場合には、TV会議システムを活用し、受験者の利便を図っている。本学オフィシャルサイトに英文サイトはあるものの、入学願書等必要書類が必ずしもすべて英文化されていないことには、改善の余地がある。

(3) 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

本研究科の入学定員は、35名である。入学者数は、2013年度16名、2014年度17名と、充足率は、50%弱で推移している。研究科全体で入学者の増加を目標にしているが、容易ではないのが現状である。特に、本学修士課程からの進学者を増やすことが喫緊の課題である。進学者を増加させる必要条件として、学費の軽減、奨学制度の拡充などが挙げられる。

(4) 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

学生募集、入学者選抜の公正性や適切な実施に問題はない。また、 Semester毎に入学者数の推移を教授会に報告するとともに、研究科長、専攻主任、教務委員で検証している。

2. 点検・評価

評定 B

基準5の充足状況

学生の受け入れ、入学者選抜の多様な方法などは公正に行われている。しかし、本学修士課程からの進学者数の伸びが認められない。また、必要書類が完全に英文化されていな

い。

① 効果が上がっている事項

一般入学試験のみならず、推薦入試、社会人特別入試、国際方式等による留学生の受け入れなど、様々な入試制度を設けている。留学生の場合には、英語で実施し、本学各キャンパスの修士課程からの入学希望者の場合には、TV会議システムを活用している。教員の研究内容は、英文和文併記の個人ファイルをオフィシャルサイトに掲げている。

② 改善すべき事項

定員に対する充足率は、50%弱で推移している。研究科として入学者の増加を目標にしている。特に、本学修士課程からの進学者を増やすことが課題である。また、留学生用の必要書類が必ずしも英文化されていない。

3. 将来に向けた発展方策

① 効果が上がっている事項

教員の研究内容ファイルの更新や、新たな教員の研究内容掲載など、きめ細かく、素早く、対応を図る。

② 改善すべき事項

修士課程の各研究科と密接に連携し、進学者の向上を目指したい。本学修士課程からの進学者に対する入学時負担金の軽減、奨学金制度の拡充などを提案する。また、必要書類の英文化を、国際部、教務課大学院係等と連携して推進する。

4. 根拠資料

5-1. オフィシャルサイト

http://www.u-tokai.ac.jp/about/concept/admission_policy2.html

5-2. 東海大学大学院各入学試験要項

5-3-3 地球環境科学研究科

1. 現状の説明

（1）学生の受け入れ方針を明示しているか。

大学院要項の地球環境科学研究科の項目にて目的及び人材像を明確にしている。また、東海大学大学院学則第9章にて受け入れ方針を明示している。

（2）学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

年に2回の一般入学試験、社会人特別入学試験が行われている。

（3）適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

定員については大学全体として設定されているため、研究科独自のものではない。収容定員に近づけるよう各教員が修士の学生に対して進学を喚起している。

（4）学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

現時点で定員を充足していないこと、さらには年度によっては大学院生が全くいない年があることを認識しており、FD活動で進学者を増やす方策などを検討している。

2. 点検・評価

評定 B

基準5の充足状況

FD活動による教員間の連携はとれるようになったが、学生の定員を充足するよう努力をしているものの定員が充足できていない状況である。FD活動で教員相互の意見から修士課程との連携の必要性の意見もだされているが、札幌校舎では修士課程がなくなり、修士からの進学が望めなくなるなど、問題点が抽出されるが、研究科内では解決できる問題ではないことから、研究科長から学長などに問題点を説明し、改組などを含めて検討する。目標となる定員充足が行えていないことからBと評価した。

① 効果が上がっている事項

FD活動によって教員間の連携はとれるようになっている。

② 改善すべき事項

進学者を増やすこと。

3. 将来に向けた発展方策

① 効果が上がっている事項

引き続き、各教員が修士の学生に進学を喚起して行く。

② 改善すべき事項

定員充足については、東海大学大学院そのものの組織にも問題があると考えられる。大学当局に博士課程の改組について依頼して行く。また、国際的に大学院生を募集するためには大学として英語の要項やHPの開設が必要と考える。

4. 根拠資料

5-1 東海大学学則

5-2 大学院要項

5－3 地球環境科学研究科入試情報

http://www.u-tokai.ac.jp/prospective_students/admission_app/

5－4 2014年度FD活動計画書

5－5 2014年度FD活動報告書

5-3-4 生物科学研究科

1. 現状の説明

（1）学生の受け入れ方針を明示しているか。

学生の受け入れ方針は、大学院「入学試験要項」、「大学院ガイド」、東海大学 Web ページに記載し、広く周知を図っている。

（2）学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

入学試験要項、大学院ガイドに記載されている方針に基づき、大学院の入試試験における出願手続き方法、試験上の注意、合格発表、入学手続き方法について記載している。特に、出願手続きについては、書類の種別、提出期限について詳細に記載している。これにより、受け入れ対象となる受験者を書類審査し、基準に達している場合は、プレゼンテーションを含めた学力選抜を行い、適正に実施されている。

（3）適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

本研究科では定員 10 名であるが、2012 年度 2 名、2013 年度 3 名、2014 年度 4 名の入学生があり、未充足な現状にあるが、微増状況にある。これは研究分野の有無により出願状況が変動するためと考えられる。

（4）学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

入学者選抜の結果は、年 2 回の入試時期に開催される教授会で報告され、学生募集などについて検証されている。

2. 点検・評価

評定 B

基準 5 の充足状況

学生の受け入れ方針は適切に公開されているが、これまでと同様に収容定員に対し未充足の状態にあり、同基準の達成にはやや不十分である。

① 効果が上がっている事項

学生受け入れ方針は「入学試験要項」「大学院ガイド」で適切に情報提供されており、学内各部署には周知されている。博士課程後期への進学は明確な志望動機とともに資質も重要な要素になっているため、積極的な志願者確保を行っていない。

② 改善すべき事項

博士課程後期の研究科とはいえ、学生確保のために高い専門的思考と技術を教育できる魅力ある環境構築を行い、改善に向けた取り組みが必要であると考えます。また本研究科は博士課程後期の独立した研究科であるため、修士課程、あるいは博士課程前期の研究科とのつながりが不明確であるため、学生への周知が不十分と思われる。学生にもわかりやすく一貫性がある体制を考える必要がある。さらにグローバル化に伴い国外からの留学生確保のため大学院の英語による要項や Web サイトを作成し、国外にも周知する必要がある。

3. 将来に向けた発展方策

① 効果が上がっている事項

学生の受け入れ方針などは明確に示されているのでそれを積極的に学内外に周知していく方策をとる必要がある。

② 改善すべき事項

本研究科の教員組織も社会環境の変化に適合したものに改善していくことが求められよう。また、総合理工学研究科や地球環境科学研究科との専攻分野の見直しについても検討する必要がある。定員に対して未充足である原因について関連研究科の学生にアンケートをとるなど、その原因を客観的に調査する必要がある。

4. 根拠資料

「2014年度東海大学大学院春学期一般・社会人特別入学試験要項」

「2014年度東海大学大学院春学期推薦入学試験要項」

「2014年度東海大学大学院秋学期一般・社会人特別入学試験要項」

「2014年度東海大学大学院秋学期推薦入学試験要項」

「東海大学大学院ガイド2014」

「東海大学オフィシャルサイト アドミッションポリシー 大学院」

http://www.u-tokai.ac.jp/about/concept/admission_policy2.html

5-3-5 文学研究科

1. 現状の説明

(1) 学生の受入れ方針を明示しているか。

文学研究科では、学生の受け入れ方針（アドミッションポリシー）を「東海大学大学院ガイド」に、専攻ごとに記載している。また本学オフィシャルサイトの文学研究科のページに、同様のものを掲載し、広く周知を図っている。文学研究科全体の学生の受け入れ方針（アドミッションポリシー）は、現在策定中である。文学研究科の教育は、文学部の学科と密接な関連があり、文学部の教員が文学研究科を兼務することも多く、連続性を保っている。そこで、進学を希望する学生には、教員が面談を行い質問に対応している。

入学に際し修得しておくべき知識等の内容・水準については、各種「入学試験要項」に明示し、本学オフィシャルサイトでも掲示している。また、直近3回分の過去の入試問題を入学課において公開しており、その内容・水準をおおむね知ることができる。

障害を持っている学生については、本学全体の方針に沿って対応している。

(2) 学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

アドミッションポリシーに沿って、一般入試・推薦入試・社会人入試など多様な入試制度を設けている。学生募集方法、入学者選抜方法は、大学全体の方針に則り、「入学試験要項」、「東海大学オフィシャルサイト入試情報」等に記載し周知を図っている。また、文学研究科所属教員による文学部在学学生に対する大学院説明会、学生への個別面談等を適宜行い情報提供に努めている。留学生への対応については、大学全体で対応を行っている。

選考方法については、専門試験・外国語試験・面接試験・小論文・調査書がどのように評価され合否判定に用いられるか「入学試験要項」に明示してある。

前年度の入試結果については「東海大学大学院ガイド」に記載し、情報として提供するとともに、透明性を確保している。

(3) 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

学生定員および充足率は、2014年度（平成26年度）については、以下の表のようになっている。博士課程前期（修士）は、専攻によって充足率がかなり偏りがあり、博士課程後期については、充足率が全般的に低い。文系大学院博士課程出身者に対する社会的認知が日本社会では著しく低く、卒業後の進路の関係で出願者が少ない状況が続いているため、質の確保の観点から容認せざるを得ない。

博士課程前期(修士)					博士課程後期					
1年	2年	計	定員	充足率	1年	2年	3年	計	定員	充足率
27	33	60	88	68.18%	5	4	6	15	54	27.77%

(4) 学生募集および入学者選抜は、学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

文学研究科では、学生募集および入学選抜のあり方について定期的に検証するための委員会組織は設置していない。しかし、研究科長・専攻主任・常任教務委員とで構成し、年間4回から5回程度開催される専攻主任会議において、入試制度全般について検討が行わ

れている。改定の必要があれば、研究科教授会において審議・検討することとなっており、外国語科目の設置などについて改定を施したことがある。

2. 点検・評価

評定 B

基準5の充足状況

学生の受け入れ方針（アドミッションポリシー）の適切な公開、入学者選抜における透明性の確保については充分に行われている。収容定員の管理については、全体として未充足が続いており、特に博士課程後期については充足率が低い。また、博士課程前期についても、専攻によってかなり充足率に差がある。

① 効果が上がっている事項

コミュニケーション専攻では、大学院入学希望者ならびに地域社会の要望に応え、臨床心理士養成大学院（第1種）の指定を受けるため、2014年度より東海大学心理教育相談室を開室した。2015年度には認証を得られる予定なので、これを広く広報し、定員の確保と教育内容の充実につなげたいと考えている。

② 改善すべき事項

各専攻のアドミッションポリシーは策定されているが、文学研究科全体のアドミッションポリシーが掲げられていないので、これを策定し周知する必要がある。

定員充足については、未充足の専攻のより一層の広報の推進に加え、育成しようとする人材について検討し、受験生や社会の要請に合わせた教育課程の改定、収容定員の見直し等の施策を行い改善に努める必要がある。

3. 将来に向けた発展方策

① 効果が上がっている事項

臨床心理士養成大学院（第1種）の認定を受けるための申請を2015年度に行う。また、国家資格「公認心理師」に対応すべく、学部心理・社会学科とともにカリキュラム等を検討する。東海大学心理教育相談室定員は学長直属機関として位置づけられた。相談料の有料化と共に、教育・地域貢献の場として充実した活動を維持していく。

② 改善すべき事項

文学研究科教授会を通じ、文学研究科全体のアドミッションポリシーを策定し広報する。

定員充足率が低い点については、より一層の広報活動を加えるとともに、育成しようとする人材像の検討、教育課程の見直し、定員の見直し等の努力を行う必要があると認識している。具体的には、東海大学文学部との連続性を重視し、専攻ごとに発行した学術雑誌等をもとに、学部学生への大学院への認知度を高める努力をする。教職志望者・学芸員志望者を中心に、より幅広い知識と学問的経験をえられる大学院進学の意味を伝え進学を促す。

ただ、日本社会では、文系大学院出身者に対する認知度が著しく低く、卒業後の進路が保障されない社会状況がある。いわゆる実務的教育内容の専攻でなくとも、高度な教養と能力を身につけた文系大学院出身者への社会的処遇についての啓蒙を行う必要を感じている。

4. 根拠資料

5-1「東海大学大学院ガイド 2014」

- 5-2-① 「2014年度東海大学大学院春学期一般・社会人特別入学試験要項」
- 5-2-② 「2014年度東海大学大学院春学期推薦入学試験要項」
- 5-2-③ 「2014年度東海大学大学院秋学期一般・社会人特別入学試験要項」
- 5-2-④ 「2014年度東海大学大学院秋学期推薦入学試験要項」
- 5-3 「東海大学オフィシャルサイト入試情報」 http://www.u-tokai.ac.jp/admission_app/
- 5-4 「東海大学オフィシャルサイトアドミッションポリシー大学院」
http://www.u-tokai.ac.jp/about/concept/admission_policy2.html
- 5-5 「東海大学 2014 年度教育研究年報基礎データ」
- 5-6-① 「心理教育相談室 2014 年度活動報告書」
- 5-6-② 「東海大学心理教育相談室規程」
- 5-6-③ 「東海大学心理教育相談室内規」
- 5-6-④ 「東海大学心理教育相談室運営委員会規程」
- 5-7-① 「文明研究 第 33 号」
- 5-7-② 「東海史学 第 49 号」
- 5-7-③ 「湘南文学 第 49 号、第 50 号」、「東海大学日本語日本文学 研究と注釈 第 4 号」
- 5-7-④ 「英文学専攻紀要 第 3 号」
- 5-8 2014 年度「研究科別大学院在籍人数（2014. 5. 1 現在）」（2014 年度第 2 回大学院運営委員会議題、p. 76）

5-3-6 政治学研究科

1. 現状の説明

(1) 学生の受け入れ方針を明示しているか。

学生の受け入れ方針については、入学試験要項、大学院ガイド、本学オフィシャルサイトにおいて明示されている。

(2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

学生の募集方法および入学者選抜の方法については、入学試験要項、本学オフィシャルサイトをつうじて明示し周知をはかっている。

(3) 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

適切に定員を設定し、在籍学生を管理しているが、充足状況は十分ではない。

(4) 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

学生募集および入学者選抜の実施については、研究科において入試ごとに検証を行っている。

2. 点検・評価

評定 A

基準5の充足状況

学生の受け入れに関する研究科の体制に問題はないが、学生の充足状況は十分ではない。

① 効果が上がっている事項

学部生向けに大学院内部進学説明会を行い、学部生にたいする研究科の認知の改善を図った。

② 改善すべき事項

学部生向けの説明会の機会を増やすとともに、それ以外の広報を検討する必要がある。

3. 将来に向けた発展方策

① 効果が上がっている事項

大学院内部進学説明会は今後とも継続・拡大する方向で行っていく。

② 改善すべき事項

魅力ある研究科となるために何が必要であるか、いっそうの検討が必要である。

4. 根拠資料

5-1 2014年度東海大学大学院春学期一般・社会人特別入学試験要項

5-2 2014年度東海大学大学院春学期推薦入学試験要項

5-3 2014年度東海大学大学院秋学期一般・社会人特別入学試験要項

5-4 2014年度東海大学大学院秋学期推薦入学試験要項

5-5 「東海大学オフィシャルサイト 入試情報」

http://www.u-tokai.ac.jp/admission_app/

5-6 「東海大学オフィシャルサイト アドミッションポリシー 大学院」

http://www.u-tokai.ac.jp/about/concept/admission_policy2.html

5-7 政治学研究科 大学院内部進学説明会ポスター、同ハンドアウト（PDF ファイル）

5-3-7 経済学研究科

1. 現状の説明

（1）学生の受け入れ方針を明示しているか。

学生の受け入れ方針（アドミッションポリシー）について、経済学研究科では「大学院ガイド」と大学オフィシャルサイトに掲載することで、広く周知を図っている。その内容に関しては毎年度、科長・主任・常任教務委員・常任広報委員・評価委員が中心となって点検及び確認を施した上で、明示している。

（2）学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

学生の受け入れ方針に基づいて、経済学研究科では、博士課程前期の募集として、毎年度7月に春学期推薦入学試験（第1期）・春学期一般入学試験（第1期）・春学期社会人特別入学試験（第1期）（4月入学）及び秋学期推薦入学試験・秋学期一般入学試験・秋学期社会人特別入学試験（10月入学）を実施している。また、毎年度2月には春学期推薦入学試験（第2期）・春学期一般入学試験（第2期）・春学期社会人特別入学試験（第2期）（4月入学）を実施している。

博士課程後期については、以上の入学試験のうち、社会人特別入学試験以外のものを同時期に実施している。いずれの入学試験においても、出願基準（推薦基準）ならびに出願資格、出願期間（推薦期間）、出題する外国語試験及び出題科目について「入学試験要項」に記載している。

入学制度の策定から試験実施までにおける検討事項や改善要求に関しては、各学部・大学院から選出された入試企画専門委員会が組織されており、その委員会にて大学院入試について検討されている。経済学研究科からも入試企画専門委員を毎年度1名選出し、その委員会に毎回出席している。委員会で検討課題が出た場合には研究科に持ち帰り、議論し、その結果を委員会に報告している。広報活動についても同様に、常任広報委員会が開催されており、経済学研究科からも毎年度1名を選出し、毎回出席している。

入学者選抜に際しては、外国語と専門科目からなる筆記試験について各出題者が採点するとともに、面接試験では科長・主任・常任教務委員ならびに指導を希望されている教員を含めた、最低5名が面接員として審査し、多面的に評価している。また、その評価結果を教授会に諮り、承認を得ている。

（3）適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

経済学研究科では博士課程前期の入学定員を10名、博士課程後期の入学定員を5名に設置している。大学院教育での大きな目標が学位申請論文の作成にあり、その作成のための研究指導を教員がきめ細かく行っていく必要があることを鑑みると、入学定員数は適切である。

学生の受け入れに関しては、研究指導教員単位に委ねられる点が多分にあるため、研究科単位として出願希望の学生がどの程度、初期段階（問い合わせレベル）で来ているのかを把握して切れていない部分がある。

また、実際に出願がなされ、入学する学生数については、ごくわずかである。収容定員

を超過することはないが、その反対に全く入学者がいないセメスターも存在するので適正に管理できているとは言い難い状況下にある。

（４）学生募集および入学者選抜は、学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

大学院入試判定委員会の結果報告を受けて、年２回（８月と２月）に判定教授会を開催しており、その際に検証がなれている。

2. 点検・評価

評定 C

基準5の充足状況

学生の受入れ方針を明示し、それに基づいた公正かつ適切な入学者選抜を行っているが、学生募集のための広報活動や適切な収容定員の管理の点において不十分であり、改善すべき点が多い。

① 効果が上がっている事項

アドミッションポリシーについては、「入試要項」や大学オフィシャルサイトを通じて公開しており、実際に学内外から出願があるので、適切に提示されていると見なすことができる。また、全学的な組織である入試企画専門委員会や常任広報委員会に研究科の代表が常時1名参加しており、そこでの検討課題を教授会に持ち帰り、検討をしているので、アドミッションポリシーに沿った学生の受け入れを保つことができている。

② 改善すべき事項

定員については未充足の状況が続いている。改善報告書（大学基準協会）での指摘にもあるように、社会人や外国人留学生に対する配慮を行うことなど、改善策を検討する必要がある。また、研究生希望や出願希望の学生は、まず指導を希望する教員に個別にメールないし電話で問い合わせる場合がほとんどである。問い合わせがあれば、そのつど当該教員が事前に面談をし、今後について検討しているが、そうしたアプローチ情報の共有が教員間で十分には出来ていない。この点を定期的に報告し、希望人数やアプローチのある時期、学生の質等の傾向を組織的に把握し、その対応策を吟味していくことが必要であろう。

3. 将来に向けた発展方策

① 効果が上がっている事項

例年５月と１１月に行っている「学部生向け大学院進学説明会」に加えて、当該年度では新たに「日本語別科向け経済学研究科説明会」を９月に開催することで、広報活動の幅を広げている。これは本学の別科生からの入学ないし研究生希望の問い合わせがアドホックにあることから、今後において組織的に連携できるようになるための布石的な取り組みである。

② 改善すべき事項

広報活動については主に科長・主任・常任広報委員までの関与に留まっているので、FD活動ともリンクさせながら、全教員が学生募集活動に関わり、指導教員としての受け持ちや、研究生の受け入れを積極的に行っていく必要がある。特に、一般学生の進学をいかに増やすか、また、社会人の入学をいかに促すかについては改善の余地が大きく残っている。

4. 根拠資料

- 5-1 東海大学 大学案内 2014
- 5-2 東海大学 入試情報 2014
- 5-3 東海大学 大学院ガイド 2014
- 5-4-① 2014年度東海大学大学院春学期一般・社会人特別入学試験要項
- 5-4-② 2014年度東海大学大学院春学期推薦入学試験要項
- 5-4-③ 2014年度東海大学大学院秋学期一般・社会人特別入学試験要項
- 5-4-④ 2014年度東海大学大学院秋学期一般・社会人特別入学試験要項
- 5-5 東海大学オフィシャルサイト 入試情報
http://www.u-tokai.ac.jp/admission_app_
- 5-6 東海大学オフィシャルサイト アドミッションポリシー 大学院
http://www.u-tokai.ac.jp/about/consept/admission_policy2.html
- 5-7 東海大学 2014年度教育研究年報 基礎データ

5-3-8 法学研究科

1. 現状の説明**（1）学生の受入れ方針を明示しているか。**

大学院全体および研究科の受入れ方針を制定しており、大学のホームページにおいて広く公表しているほか、大学院要項に記載されている。また、受入れ方針（アドミッションポリシー）は、「大学院ガイド」にも掲載されるとともに、「入学試験要項」では、研究科でどのような知識やその水準を求めているかを掲載している。

（2）学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

学生募集の内容や選抜手続等は入学試験要項に示されている。入学者選抜においては、研究科構成員のすべてが面接に加わることを可能としたうえで（慣例上のものであるが、実際、ほとんどの構成員が面接に同席する）、研究科教授会の議を経て（その際、試験問題と答案について閲覧することができる）、合否の判定を行い、受入れ方針に基づく学生募集、入学選抜が公正かつ適切に行われるよう努めている。

なお、今年度、これまで社会人を対象として設定されてきた入学試験方式であるB方式の廃止につき検討した結果、他の研究科でも用いられている社会人特別入学試験を採用することにした。

（3）適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

定員の設定は東海大学院学則別表2において設定されており、2013年度大学基礎データに示されているように（表18）、収容定員を超える入学は行われていない。他方、2014年度においては、博士課程前期では在籍学生はなく、また、博士課程後期では在籍学生1名という状況にあり、2015年度も同様の状況となるため、定員の充足状況に問題を残している。なお、学生募集のための方策として、学部生に対するセメスター初めのガイダンスにおいて法学研究科についての説明を行い、また、FD委員会が中心となり作成したポスターを掲示している。

（4）学生募集および入学者選抜は、学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

研究科内に定期的に検証を行うための特別の委員会等は設置していないが、毎年度「入学試験要項」の作成過程において、研究科長、専攻主任、教務委員により点検が行われ、変更・修正の必要性について検討している。また、入学の合否を判定する教授会での議論を通じて、学生募集と入学者選抜が公正かつ適切に実施されているかについての検証は定期的に行っている。

2. 点検・評価

評定 B

基準5の充足状況

制度の上では基準をおおむね充足していると判断できるようなが、基準の充足についての判断も学生が確保されていることが前提となるであろうことを考慮すれば、この点に問題を残しており、基準充足はやや不十分である。

① 効果が上がっている事項

学生の受入れ方針については明示され、定期的に検証している。入試における面接も合否判定の公正・適確性を保つのに寄与しているほか、入学してきた学生がどのような学力や期待をもっているのかを知る一助ともなり、入学後の学生指導にも有用なものとなっている。

② 改善すべき事項

収容定員の充足状況は、研究科存在の意義にもかかわりうるような状況となっているため、真剣な検討を要する事態になっている。

3. 将来に向けた発展方策

① 効果が上がっている事項

入学試験における面接に研究科構成員のほとんどすべてがかかわることを通じて、適正な入学選抜を確保している点は、今後も維持していくことを考えている。ただし、この面接方法には次に記すような検討課題を残している。

② 改善すべき事項

入学試験の際の面接に関して面接教員の数が多いため、受験生が圧迫感を感じているのではないかという懸念がある。受入れ方針の適正な実施を担保する点での多大なメリットはあるものの、この点で、従来の方針を維持すべきかどうかあらためて検討する。

また、収容定員の充足率を高めることが必要である。研究科で学ぶことに関して紹介するポスターをFD委員会が中心となり作成、掲示しているが、効果は上がっているとはいえ、大学院に関心をもってもらうために学部生に対するガイダンス時の説明のほかに説明会を開いていくなどのことが必要である。一層の広報活動を考えなければならない。また、この点は、研究科として、どのような人材を育てるのか、受入れ方針や教育内容の再編成にもつながる課題であるが、この点、再編成の可能性をも俎上にのぼせた検討は進んでおらず、最終的に現状の維持や小幅修正になるかはどうかはともかく、検討を行わなければならない。

4. 根拠資料

5-1 東海大学ホームページ アドミッションポリシー

http://www.u-tokai.ac.jp/about/philosophy_history/concept/admission_policy.html

5-2 東海大学院学則別表2

5-3 大学院要項（Ⅱ）

5-4 FD委員会作成のポスター

5-5 入学試験要項

5-6 大学院ガイド

5-7 2013年度東海大学教育研究年報 大学基礎データ 表18

5-3-9 人間環境学研究科

1. 現状の説明

(1) 学生の受入れ方針を明示しているか。

学生の受入れ方針は、大学全体の方針の下に、研究科のアドミッションポリシーとして「本学の「建学の精神」と、本研究科の教育理念・目標である「人文・社会・自然科学の枠を超えた学際的な視野で人間の生き方を再考し、豊かさの本質を問い直すことができ、従来の固定観念にとらわれることなく人間環境を広い視野で考え、共生社会構築に向けて行動できる人材」の育成」を理解し、自ら学ぶ意欲をもった者を国内外から広く受け入れます」として、大学HP（『東海大学HP アドミッションポリシー』）で明示・公開している。

なお、入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準、および障がいのある学生の受入れ方針については明示していない。

(2) 学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

学生募集方法は、大学HP（『東海大学HP 大学院入学試験』）、および入学試験要項（『東海大学大学院入学試験要項』）などにより明示・公開されている。

入学者の選抜基準については、学内の入試企画委員会などにより研究科の意見を取り入れて決定され、入学試験要項（『東海大学大学院入学試験要項』）に記載されている。その選抜基準に従った合否の判定については、各研究科の判定案を大学院入試判定委員会で検討して最終的な合否を決定するなど、複数の合否判定の検討が行われており、入学者選抜において透明性を確保するための適切な措置がとられているといえる。

(3) 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

2014年度の収容定員に対する在籍学生数比率は0.85（在籍学生数17名、収容定員20名）（『東海大学HP 学生数（2014年度大学在学者数一覧』））で、収容定員を確保できていない。この未充足の状況を改善するために、教養学部人間環境学科の4年生などに学内メールなどにより進学のご案内を配信し、進学に興味を示している学生については、各学部指導教員がその都度相談に応じている。

(4) 学生募集および入学者選抜は、学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

学生募集および入学者選抜については、学内の関係部署において継続した検証が行われているが、研究科においても入学試験などの機会にその都度検討している。

2. 点検・評価

評定 B

基準5の充足状況

学生の受入れ方針が明示され、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜が行われているとともに、それらについて機会があるごとに検討しているが、入学にあたり習得しておくべき知識などの内容・水準、および障がいのある学生の受入れ方針が明示されていない。

また、収容定員に対する在籍学生数比率は0.85で、収容定員を確保できていない。

① 効果が上がっている事項

求める学生像が明示されており、適切な学生募集および入学者選抜が行われている。また、入学者選抜においても透明性を確保するための措置がとられている。

② 改善すべき事項

入学にあたり習得しておくべき知識など、および障がいのある学生の受入れ方針が明示されていない。

また、収容定員を確保する必要がある。

3. 将来に向けた発展方策

① 効果が上がっている事項

求める学生像の明示、適切な学生募集および入学選抜、および入学者選抜における透明性の確保について今後も継続して堅持する必要がある。

② 改善すべき事項

入学にあたり習得しておくべき知識など、および障がいのある学生の受入れ方針を明示する方策を検討する必要がある。

また、収容定員の確保に向けて教授会を構成する教員をはじめ、その他の学部やセンター所属教員、および非常勤教員などとも意見交換を行い、具体的な方策を講じる必要がある。

4. 根拠資料

5-1 『東海大学 HP アドミッションポリシー』

http://www.u-tokai.ac.jp/about/philosophy_history/concept/admission_policy.html

5-2 『東海大学 HP 大学院入学試験』

http://www.u-tokai.ac.jp/prospective_students/admission_app/examination_about/graduate/

5-3 『東海大学大学院入学試験要項』

5-4 『東海大学 HP 学生数（2014年度大学在学者数一覧）』

http://www.u-tokai.ac.jp/about/profile/num_student/

5-3-10 芸術学研究科

1. 現状の説明

（1）学生の受け入れ方針を明示しているか。

大学院要項と学生募集要項で明示している。

（2）学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

入学試験では、各指導教員が受け入れ方針にしたがって試験問題を作成し、それを採点し、面接での質疑でさらに確認して入学者の選抜を行っている。

（3）適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

創設以来8名の入学定員（音響芸術4名／造型芸術4名）を継承し、文系にあつて常に在籍数が定員数を上回る状況が続いている。

昨今の社会状況から学部からの推薦進学は減少傾向にあるが、2014年度は21名が在籍していた。

（4）学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

春秋のⅠ期、Ⅱ期の推薦・一般入学試験を中心に、常に両専攻で検証しつつ入学者選抜を行っている。

2. 点検・評価

評定 A

基準5の充足状況

2014年度に実施した入学試験では、2015年度入学者は音響芸術が2名、造型芸術が3名であり、最近にない減少状況であった。総在籍数は13名であるが、この内修了延長の3年目が2名いる状況である。

① 効果が上がっている事項

2014年度に2名であった留学生が2015年度には5名となり、海外からの留学生がここ最近継続しており、日本で芸術学を学ぶ意義として本研究科の特色が理解されている。

② 改善すべき事項

現在の社会状況では、経済的理由で進学の志望を持ちながらも断念することが散見されており、それを超える魅力の創出と、学部と大学院の一層の連携強化が求められている。

3. 将来に向けた発展方策

① 効果が上がっている事項

少数とはいえ、学部卒業後に就職を経て進学してくる者や、海外の留学生が継続している点は評価できる。

② 改善すべき事項

継続している海外（特にアジア）からの留学生受け入れや、社会人受け入れ体制の整備が求められる一方、芸術学科と芸術学研究科の一層の連携が求められ、一貫した視野からの教育課程および教育内容の整理が重要と考える。

4. 根拠資料

東海大学 2014 年度大学院要項 芸術学研究科 p. 75～82

東海大学 2014 年度芸術学研究科年報 p. 53～80

5-3-1-1 国際地域学研究科

1. 現状の説明**（1）学生の受入れ方針を明示しているか。**

学生の受入れ方針（アドミッションポリシー）については、学部全体は「大学案内」、「入学試験要項」に記載しており、研究科は大学院全体を「入学試験要項」に、研究科・専攻毎は「大学院ガイド」に記載している。また、本学オフィシャルサイトにおいて学部・研究科毎に掲載し、広く周知を図っている。

（2）学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

「入学試験要項」において、出願資格を設定し各学部・研究科の期待する知識の内容及び水準について明示している。また、本学オフィシャルサイトにおいても同様に掲載しており、近年導入したインターネット出願での受験生にも対応している。障がいを持つ学生については、受験及び修学上特別の配慮を必要とする場合は、「入学試験要項にて、出願前に申し出るように注意喚起を行っている。申し出のあった学生については、文書にて本人の希望と本学の配慮内容のすり合わせを行い、配慮内容について合意の上で出願を認めている。入試制度の策定から試験実施における検討事項や改善要求については、大学院より選出された委員で構成される大学院入試企画専門委員会を組織し、大学院入試について検討を行っている。この委員会で決定した事項は上位組織の入試企画委員会にて検討され、最終的な承認を得ている。また、広報活動についても大学院常任広報委員を各大学院より選出された委員で構成される常任広報委員会にて検討及び承認を行っている。「入学試験要項」において各学部・大学院の入学試験における出願手続方法、試験上の注意、合格発表、入学手続方法について記載している。

（3）適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

大学院については、研究科によって充足状況に差異が生じている。これは、学部と異なり研究分野の有無によって出願状況が変動するためであり、質の確保の観点から容認している。大学院については、研究指導教員の人数や教育の質の確保もあるため定員の未充足や超過が発生しているが、本研究科においては1学年4名の定員を充足した年度もあるものの充足されない年度が多い。

（4）学生募集および入学者選抜は、学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

学生の受入れ方針が、適切に運用されているか入学後の追跡調査を入学センターにて行っている。その結果を踏まえ、入試制度の改革や魅力あるカリキュラム策定に反映させてきた。

2. 点検・評価

評定 B

基準5の充足状況

学生の受入れ方針について適切に公開しており、透明性も確保できている。また、収容定員の管理についても、適正に管理されており、学生の受入れに関する基準をほぼ達成し

ている。

① 効果が上がっている事項

アドミッションポリシーについては、「入試要項」や本学オフィシャルサイトを通じ広く公開されており、本学を志望する学生に適切に提示されていると評価できる。学生募集、入学者選抜については「入学試験要項」、「入試情報」にて適切に情報提供を行っており、また、その周知についても入学センターの職員だけでなく、学内各部署の協力によって選抜された入学アドバイザーが積極的に広報活動を展開しており、適切な周知ができているものと評価できる。

② 改善すべき事項

大学院の定員充足状況については、未充足の研究科と定員超過の研究科の差が大きいため、本研究科においても広報の推進に加え、収容定員の見直しを行う等の施策を行い改善に努めている。

3. 将来に向けた発展方策

① 効果が上がっている事項

国際文化学部からの進学者も想定し、スポーツとデザインとを意識してカリキュラムを再編した。相互関連させつつ、これまでの「地域」と「国際」というキーワードに加え、学部学科との運動性・連携性をいっそう強めた。多様な学生を確保することができるため、本大学院を志望する学生への刺激としてきた。それは一定の効果もあった。

③ 改善すべき事項

大学院の定員充足状況の改善を目指し、各研究科の広報活動の推進を進めてきた。また外国人留学生の増加によって、英字の入学試験要項の作成や本学オフィシャルサイトの英字サイトの充実を検討している。定員超過の著しい研究科・専攻については過去の入学状況を精査し、適切な人数を算出することで解消を目指す。また、学問分野の見直しについても検討を行い、今後の魅力ある改組につなげてきた。また、本研究科に対し社会人受け入れに対する配慮改善の指摘を受け、改善に向けた体制整備をすすめていたものの募集停止が決定したため、これに関しては記述しない。本研究科は2015年度入試を最後に、募集停止の判断が下された。

4. 根拠資料

- 5-1 東海大学ホームページ(国際地域学研究科)
- 5-2 2014年度東海大学大学院要項(Ⅱ)国際地域学研究科 pp. 83-87.
- 5-3 2014年度東海大学教育年報 大学基礎データ 表 18-3

5-3-1-2 理学研究科

1. 現状の説明

(1) 学生の受け入れ方針を明示しているか。

理学研究科の学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）は、本学ホームページで公開されている。

(2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

学部での成績が上位4割以内であれば推薦入試の対象となるが、推薦する際には面接を行い、受け入れ方針に適合した学生であるか確認している。一般入試においても、学力試験の結果に加えて、面接による勉学意欲の有無や大学院生としての資質の有無などの確認を行い、合否判定を行っている。

(3) 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

ここ5年間の定員充足率は、理学研究科全体で1.06から1.50（数理科学専攻0.63から1.50、物理学専攻1.175から2.08、化学専攻1.00から1.67）であり、年度や専攻によって大きく上下しているが、理学研究科全体としては概ね適切に管理されている。

(4) 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

研究科主任会において定期的に検証しており、特に推薦入試の推薦基準などについて検討を行っている。

2. 点検・評価

評定 A

基準5の充足状況

学生の受け入れ方針は、本学ホームページ等で公開されている。定員充足率は、理学研究科全体としては概ね適切に管理されている。

① 効果が上がっている事項

理学研究科全体としては定員充足率が1を超えている。

② 改善すべき事項

数理学専攻では、年度によって定員充足率が1に達しないことがある。

3. 将来に向けた発展方策

① 効果が上がっている事項

学部教育において、大学院進学の意味や利点を説明し、大学院進学希望者を増やす。

② 改善すべき事項

上述の方策に加え、研究の魅力や修了後の就職について、大学院進学希望者が増えるような情報を学部生に与える。

4. 根拠資料

5-1 東海大学ホームページ（アドミッション・ポリシー）

http://www.u-tokai.ac.jp/about/philosophy_history/concept/admission_policy.html

5-2 2014年度教育研究年報 大学基礎データ 新表3

5-3-13 情報通信学研究科

1. 現状の説明

(1) 学生の受入れ方針を明示しているか。

学生の受入れ方針（アドミッションポリシー）については、大学院全体を「入学試験要項」に記載し、情報通信学研究科の受入れ方針は「大学院ガイド」において『情報通信学研究科では、本研究科の教育目標「情報通信分野に関する高度な専門知識と技術力に加え、幅広い関連知識を有する研究者および技術者として、高度な情報通信分野の研究・開発、技術の高度化・高品質化を担う人材を育成する」に共鳴し、自ら学ぶ意欲をもった人を求めます。』と記載している。また、本学オフィシャルサイトにおいても掲載し、広く周知を図っている。

「入学試験要項」において、出願資格を設定し情報通信学研究科の期待する知識の内容及び水準について明示している。また、本学オフィシャルサイトにおいても同様に掲載している。

障がいを持つ学生については、受験及び修学上特別の配慮を必要とする場合は、「入学試験要項」にて、出願前に申し出るように注意喚起を行っている。申し出のあった学生については、文書にて本人の希望と本学の配慮内容のすり合わせを行い、配慮内容について合意の上で出願を認めている。

(2) 学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

情報通信学研究科では、大学全体が定めた学生の受入れ方針に則り、多様な学生を募集するため、一般入試、社会人特別入試、推薦入試、国際方式入試などの入試制度を設けている。

学生募集方法、入学者選抜方法の周知については、「入学試験要項」、「入試方法」、本学オフィシャルサイトでの周知を行っている。

留学生については、本学のオフィシャルサイトの英字サイト、「留学フェア」への参加、日本語学校への広報を行い、本研究科の学生募集方法と入学者選抜方法の周知を行っている。

大学全体として、入試制度の策定から試験実施における検討事項や改善要求について、各学部・大学院より選出された委員で構成される入試企画専門委員会を組織し、大学院入試について検討を行っている。情報通信学研究科からも上記委員会に委員を選出し、入試についての検討に参加している。この委員会で決定した事項は上位組織の入試企画委員会にて検討され、最終的な承認を得ている。また、大学全体として、広報活動についても常任広報委員を各学部・大学院より選出された委員で構成される常任広報委員会にて検討及び承認を行っている。情報通信学研究科からも上記委員会に委員を選出し、広報活動の検討・承認に参加している。

「入学試験要項」において情報通信学研究科の入学試験における出願手続方法、試験上の注意、合格発表、入学手続方法について記載している。特に出願手続については入試制度毎に必要な書類が異なるため、書類の種別、提出期限について詳細に記載している。また、試験実施においては試験当日に持参できるものや不正行為の対処方法についても記載して

いる。これらの措置によって、学生の受験時の不安低減に努めている。

選抜方法や選考方法については、「入学試験要項」において、筆記試験、面接試験、調査書がどのように評価され合否判定に用いられるか明示している。

一般入試については、本研究科では研究科として大学院入試問題作成委員会を組織し、入試問題の作成・検討、そして、採点と合否判定を行っている。本委員会では、毎回、前回入試結果の評価を踏まえて、各科目の試験問題の作成および妥当性検討を行っており、これまでに問題文への英語表記の追加なども実施している。

各入学試験の結果については、本学オフィシャルサイトに記載し、透明性を確保している。

（3）適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

情報通信学研究科では修士課程の各学年の定員を30名と設定している。これは、情報通信学部へ接続する大学院修士課程の研究科として、情報通信学部定員320名の約10%という数値に設定されている。この設定値は、理工系の研究科として適切なものと考えられる。教育研究年報基礎データの表18-3にあるとおり、情報通信学研究科では、2012年度の研究科開設からこれまでの3年間の定員充足率は0.70から0.87となっており、定員割れの状態が続いている。

充足率を上げるための取り組みとして、春には情報通信学部の3年次学生に対して大学院進学説明会を実施して推薦入学志望者の獲得に努めている。また、秋には情報通信学部の学園祭（建学祭）において本研究科学生の活動内容を展示し、広報に努めている。

（4）学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

学生の受け入れ方針が、適切に運用されているか入学後の追跡調査を入学センターにて行っている。その結果を入試制度の改革に活用している。これらは大学全体として行っている。

2. 点検・評価

評定 A

基準5の充足状況

学生の受け入れ方針について適切に公開しており、透明性も確保できている。収容定員の管理について、定員は適正に設定されている。定員に対する入学者数の管理については、過去3年間の定員充足率は0.70～0.87と1を下回るが、著しく低いわけではない。また、学生募集の努力も行われている。以上から、学生の受け入れに関する基準をほぼ達成していると言える。

① 効果が上がっている事項

アドミッションポリシーについては、「入試要項」や本学オフィシャルサイトを通じ広く公開されており、本研究科を志望する学生に適切に提示されていると評価できる。

学生募集、入学者選抜については「入学試験要項」、「入試情報」にて適切に情報提供を行っており、適切な周知ができているものと評価できる。

本研究科で大学院入試問題作成委員会を組織し、入試問題の内容検討・作成を行っている。この活動は一般入試ごとに行い、継続的に入試問題の質の維持に努めている。また、

受験者の合否判定を行っている。

本研究科から選出した委員も参加する入試企画専門委員会、入試企画委員会、常任広報委員会などの各会議体にて、学生募集、入学者選抜に公平性や適切性について、大学全体としての検討を行っている。ここでの決定を踏まえ、次年度の入試制度改革や新規広報企画の策定等の改善が行われ、検証の仕組みが機能していると評価できる。

本研究科では多様な人材を受け入れることを表明し広く門戸を開いている。ただし、入学者の大半は本学情報通信学部からの内部進学と想定し、これまでも学部3年次生向けの説明会や学園祭での活動内容展示などの広報に努めてきた。しかし、内部進学が想定を下回り、定員充足率0.70～0.87となっている。客観的に充足率を評価すればBになるが、未充足の原因として、学費やブランド力など、本研究科だけでは解決不可能なものがある。これらの影響を除くと、ほぼ目標を達成していると評価できる。

② 改善すべき事項

今後、より多くの情報通信学部の卒業生を本研究科に受け入れるようにすることが必要である。情報通信学部3年次生向けの説明会などを通じて、本研究科の存在・本研究科に進学することの意義、ならびに本研究科のアドミッションポリシーを含む3つのポリシーについて広報をさらに強化し、一層の周知を図る必要がある。

3. 将来に向けた発展方策

① 効果が上がっている事項

留学生の受け入れを促進するために、一般入試の入試問題において問題文に英語表記を追加するなど、留学生の受験を考慮した入試問題となるよう継続的な改善を行う。

② 改善すべき事項

留学生の受入れ促進を図るために、英語での受験など、一般入試以外の多様な入試の実施を検討している。

4. 根拠資料

5-1 東海大学 入試情報 2014

5-2 東海大学 大学院ガイド 2014

5-3-① 2014年度東海大学大学院春学期一般・社会人特別入学試験要項

5-3-② 2014年度東海大学大学院春学期推薦入学試験要項

5-3-③ 2014年度東海大学大学院秋学期一般・社会人特別入学試験要項

5-3-④ 2014年度東海大学大学院秋学期推薦入学試験要項

5-4 東海大学オフィシャルサイト 入試情報

http://www.u-tokai.ac.jp/prospective_students/admission_app/

5-5 東海大学オフィシャルサイト 研究科・専攻の入学者受入れの方針

http://www.u-tokai.ac.jp/about/philosophy_history/concept/admission_policy2.html

5-6 東海大学 2014年度教育研究年報 基礎データ

5-3-14 工学研究科

1. 現状の説明

（1）学生の受入れ方針を明示しているか。

各専攻の「教育目標」「養成すべき人材像」については、「大学院要項」に記載していたが、2015年度にアドミッションポリシーを定めて明文化した。これにより、具体的かつ詳細な周知を図る。

出願資格については、「大学院入学試験要項」に記載すると共に、本学オフィシャルサイトの「入試情報」欄に記載している。工学研究科では、社会経験を持つ人物を対象とした特別入学試験も設けており、対象者の認定基準や出願規定も同様に周知を図っている。

身体機能等に障がいがあり、受験及び修学上特別の配慮を必要とする学生については、受験方法等について相談されるよう入学試験要項で周知し、個々の事情に応じて適切に対応している。

（2）学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

工学研究科では、推薦入試・一般入試・社会人特別入試を設け、留学生に配慮して秋入学の入試も実施している。

この学生募集方法および入学者選抜方法については、「大学院入学試験要項」および本学オフィシャルサイトの「入試情報」欄で情報提供を行っており、留学生向けには本学の英字サイトで周知を図っている。

入試選抜方法については、推薦入試では、推薦基準の内規を研究科で定め、これに基づき学部から推薦を受けている。内規は学科ごとに学生に周知し、出願手続方法、出願期間、合格発表、入学手続方法については「大学院入学試験要項」に記載している。

一般入試については、入学者選抜方法を専攻ごとに定め、「大学院入学試験要項」に記載して情報を提供している。試験問題については、実施前に、全学から選出された入学試験委員会により正誤や記載の妥当性を精査している。また、工学研究科では、全問題を和文・英文併として、留学生に配慮している。

さらに、入学試験の結果については、本学オフィシャルサイトの「入試情報」欄に掲載し、志望する学生に情報を公開し、透明性を確保している。したがって、推薦入試・一般入試・社会人特別入試のいずれも、公正かつ適切な入学者選抜が行われているといえる。

（3）適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

工学研究科の収容定員および在籍学生数は、本学オフィシャルサイトの「学生数」欄に掲載している。2015年度入学生の定員充足率は1.41、前年度入学生も合わせた在籍者全体での定員充足率は1.31である。専攻によって充足状況に差異があるが、全体として在籍学生数は適切に管理されている。

ただし、現状の定員の設定が志願状況と齟齬をきたしている専攻もあり、大幅な超過は教育の質の確保の支障となる恐れがあることから、工学研究科では2016年度大学院改組に伴い、母体学科の定員と進学実績、指導教員数を勘案して収容定員の見直しを行った。

（４）学生募集および入学者選抜は、学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

学生の受入れ方針が適切に運用されているか、定期的な検証を行っている。2016年度の大学院改組に伴い、各専攻での入学者選抜方法を見直し、さらに他大学卒業生を対象とした推薦入試の新設を検討している。

2. 点検・評価

評定 A

基準5の充足状況

学生の受入れ方針について適切に情報を公開しており、収容定員についても適正に管理して、学生の受入れに関する基準をほぼ達成している。

①効果が上がっている事項

工学研究科の志願者数については、減少傾向にあったが2015年度入試では増加に転じ、定員充足率も前年の1.21から1.41に上がった。定員未充足の専攻数が6専攻から4専攻に減少した点は、広報等の成果と評価できる。収容定員については2016年度改組に伴い、十分な再検討を実施した。

入学者選抜方法については、留学生に配慮すべく、昨年度から全専攻で和文・英文の併記を実施しており、公正な入学者選抜の実施に努力している。

②改善すべき事項

特になし。

3. 将来に向けた発展方策

①効果が上がっている事項

2016年度大学院改組に伴い、アドミッションポリシーおよび入学者選抜方法、収容定員について十分な再検討を実施した。特に、収容定員については、定員設定時点と現在で志願状況が変化し、未充足や定員超過が生じている専攻があることが問題点として明らかになったため、指導教員数も勘案して収容定員の抜本的な見直しを行った。

アドミッションポリシーについても、専攻ごとの教育研究目的および養成する人材像を明確化した上で明文化した。

②改善すべき事項

新たに制定したアドミッションポリシーおよび入学者選抜方法、収容定員については、「大学院要項」や本学オフィシャルサイトのみならず、工学研究科のホームページや入学試験要項等にも掲載し、より広く周知していく。また、専攻ごとに入学に当たり取得しておくべき知識等の内容や水準を、改組に合わせて確認し、周知の方法を検討する。

4. 根拠資料

5-1 大学院要項

5-2 東海大学大学院入学試験要項

5-3 東海大学ホームページ

5-4 別表：工学研究科各専攻の定員充足率と改組後の定員

5-3-15 産業工学研究科

1. 現状の説明

(1) 学生の受入れ方針を明示しているか。

本研究科の学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)は、東海大学大学院ガイドに各専攻別に明示している。

(2) 学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

学生募集は、本学のパンフレット、ホームページなどのインターネットで熊本教学課入学広報担当を事務部署として実施している。入学選抜は、推薦入学試験、一般入学試験、社会人特別入学試験（おのおの春学期・秋学期）を年2回実施し、公正かつ適切に実施している。これらの入試情報は入学試験要項に記載されている。2015年度入試(2014年実施)は推薦入学試験に3名の受験があった。

(3) 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

産業工学研究科の定員は3専攻共に一学年8名、合計24名の定員である。2014年度の在籍学生数は2年次1名、1年次3名の合計4名で、充足率8.3%と大幅な定員割れとなっている。基盤となる産業工学部・総合経営学部の大幅な定員割れに伴い、2013年度改組が実施され、募集停止になったことが主な原因と考えられる。

(4) 学生募集および入学者選抜は、学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

学生募集は毎年大学院のパンフレットを作成し、希望者に配布している。入学選抜は大学で設置した委員会では毎年、入学選抜の方式、時期などの入試基本要項を検討し、公正かつ適切に実施するように検討している。

2. 点検・評価

評定 A

基準5の充足状況

学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)は東海大学大学院ガイドに明記しており、学生募集、入学選抜およびその検証は公正かつ適切に実施している。しかし、入学生が基盤となる産業工学部・総合経営学部の入学者減少、2013年度の募集停止によって大幅に減少し、定員充足率が2014年度で8.3%と大幅に定員を割り込んでいる。そのため、Aと評定した。

①効果が上がっている事項

学生募集、入学選抜は公正かつ適切に実施されている。

②改善すべき事項

学生定員の充足率が大幅に低くなっている。

3. 将来に向けた発展方策

① 効果が上がっている事項

学生募集、入学選抜については継続して公正・適切な状況を維持する。

② 改善すべき事項

学生定員の充足を目標に学生募集を実施する。

4. 根拠資料

資料 15 東海大学大学院ガイド

5-3-16 海洋学研究科

1. 現状の説明

(1) 学生の受入れ方針を明示しているか。

学生の受入れ方針（アドミッションポリシー）については、大学院全体を「入学試験要項」に、研究科は「大学院ガイド」に記載している。本学オフィシャルWebサイトにおいても掲載し、広く周知を図っている。「入学試験要項」において設定された出願資格に従い、研究科の期待する知識の内容及び水準について明示している。（資料1）

(2) 学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

推薦入試、一般入試において、厳格に入学者選抜を実施している。学生募集方法、入学者選抜方法の周知については、「入学試験要項」、「入試情報」、本学オフィシャルサイトで周知している。「入学試験要項」において入学試験における出願手続方法、試験上の注意、合格発表、入学手続方法について記載している。

(3) 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

4専攻のうち、海洋工学専攻に関しては母体となる学部学科が2011年度改組により消滅し、入学者はほぼ0となっている。一方で、海洋学は学際的な領域を含み、従来の専攻枠ではカバーできない分野がある。これらを考慮して2015年度に改組して、1専攻に変え、学生数の確保を図る。

(4) 学生募集および入学者選抜は、学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

入学者選抜の試験方法に関しは、年度毎に入試問題作成委員会を設置し、すべての問題を吟味し、公正かつ適切な方法となるよう検証している。

2. 点検・評価

評定 B

基準5の充足状況

① 効果が上がっている事項

特になし。

② 改善すべき事項

学生数を確保することが必須である。

3. 将来に向けた発展方策

① 効果が上がっている事項

特になし。

② 改善すべき事項

学生数減少現象を解消するため、2015年度に改組を行い、1専攻（海洋学専攻）にして文系学生も受け入れ可能とし、学生数を確保する。

4. 根拠資料

資料1. http://www.u-tokai.ac.jp/academics/graduate/marine_science_and techno/

5-3-17 理工学研究科

1. 現状の説明**(1) 学生の受入れ方針を明示しているか。**

学生の受入れ方針（アドミッションポリシー）については、大学院全体を「入学試験要項」に記載し、理工学研究科の受入れ方針は「大学院要項（Ⅱ）」において『理工学研究科では、このような社会環境の変化に鑑み、地球規模の諸問題に積極的に取り組み、人と社会と自然が共生できる新しい文明社会の実現に貢献することを本研究科の理念・目的としている』と記載している。また、本学オフィシャルサイトにおいても掲載し、広く周知を図っている。

「入学試験要項」において、出願資格を設定し情報通信学研究科の期待する知識の内容及び水準について明示している。また、本学オフィシャルサイトにおいても同様に掲載している。

障がいを持つ学生が受験及び修学上特別の配慮を必要とする場合は、出願前に申し出るように「入学試験要項」で注意喚起を行っている。2014年度においては対象となる学生は受験しなかった。

(2) 学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

大学全体が定めた学生の受入れ方針に則り、多様な学生を募集するため、一般入試、社会人特別入試、推薦入試などの入試制度を設けている。

学生募集方法、入学者選抜方法の周知については、「入学試験要項」、「入試方法」、本学オフィシャルサイトでの周知を行っている。

(3) 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

理工学研究科では修士課程の各学年の定員を12名と設定している。これは、本研究科が接続する生物理工学部定員200名の約6%という数値に設定されている。この設定値は、理工系の研究科として適切なものと考えられる。教育研究年報基礎データの表18-3にあるとおり、本研究科では入学者が2012年度4人、2013年1人、2014年度0人と著しい定員割れの状態が続いてきた。しかし募集停止となる直前の入試では2015年度入学者6人と定員を確保することができた。

生物理工学部では理工学研究科の各教員の努力により受験生の増加に努めてきたものの、生物理工学部の入学者減少にともなって意欲ある学生の獲得は困難であった。

(4) 学生募集および入学者選抜は、学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

学生の受入れ方針が、適切に運用されているか入学後の追跡調査を入学センターにて行っている。その結果を踏まえ、入試制度の改革や指定校選定の資料等に活用している。これらは大学全体として行っている。

2. 点検・評価

評定 B

基準5の充足状況

学生の受入れ方針について適切に公開しており、透明性も確保できている。収容定員の管理について、定員は適正に設定されているが、入学者数の減少により定員に対する入学者の管理は適切には行えていない。以上から、学生の受入れに関する基準の達成度合いは不十分と言える。

① 効果が上がっている事項

アドミッションポリシーについては、「入試要項」や本学オフィシャルサイトを通じ広く公開されており、本研究科を志望する学生に適切に提示されていると評価できる。

学生募集、入学者選抜については「入学試験要項」、「入試情報」にて適切に情報提供を行っており、適切な周知ができているものと評価できる。

② 改善すべき事項

募集停止のため記載しない。

3. 将来に向けた発展方策

① 効果が上がっている事項

募集停止のため記載しない。

② 改善すべき事項

募集停止のため記載しない。

4. 根拠資料

東海大学 入試情報 2014

東海大学 大学院ガイド 2014

2014年度東海大学大学院春学期一般・社会人特別入学試験要項

2014年度東海大学大学院春学期推薦入学試験要項

2014年度東海大学大学院秋学期一般・社会人特別入学試験要項

2014年度東海大学大学院秋学期推薦入学試験要項

東海大学オフィシャルサイト 入試情報

http://www.u-tokai.ac.jp/prospective_students/admission_app/

東海大学オフィシャルサイト 研究科・専攻の入学者受け入れの方針

http://www.u-tokai.ac.jp/about/philosophy_history/concept/admission_policy2.html

東海大学 2014年度教育研究年報 基礎データ

5-3-18 農学研究科

1. 現状の説明

(1) 学生の受入れ方針を明示しているか。

農学研究科では、建学の精神に則した大学院学則第1条に基づき、本研究科の教育目標に沿って学生の受入れ方針（アドミッションポリシー）を定め、「大学院ガイド」と大学オフィシャルサイトにおいて明示して公表している。農学研究科のアドミッションポリシーは以下のとおりである。

本研究科の教育目標「生物の多様な機能を理解し、生物生産及び生命科学領域に貢献しうる高度な専門性と総合性を併せ持つ学際融合的な研究者・技術者を育成する」に共鳴し、自ら学ぶ意欲をもった人を求めます。

志願者は「大学院入学試験要項」や「大学案内」と同様に「大学院ガイド」も広く資料請求ができる。農学研究科の教育は、主に農学部に所属する教員が兼務しているため、学部教育と密接な関係があり連続性も多々見られるが、学生の受入れに関しては、学内外を問わず優秀な人材を受入れるように努めている。また、より生物生産に密着した教育・研究内容を希望する場合は、本研究科との間で構築されている連携大学院により、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構九州沖縄農業研究センターでの受入れも可能であり、このことも「大学院ガイド」やオフィシャルサイトでも明示している。

(2) 学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

アドミッションポリシーに基づき、農学研究科の入学者選抜は、10月入学のための秋学期推薦入学試験、秋学期一般入学試験、および秋学期社会人特別入学試験、並びに4月入学のための春学期推薦入学試験、春学期一般入学試験、および春学期社会人特別入学試験（各第1期、第2期の2回実施）が設定されており、その応募方法と選抜方法については詳細を「大学院入学試験要項」に公表して募集し、組織的に公正かつ適切に行われている。2014年度は志願者の有無により、秋学期一般入学試験、春学期推薦入学試験（第1期、第2期）および春学期一般入学試験（第1期、第2期）を実施した。一般入学試験は英語（90分）、研究指導教員の専門科目を含む専門2科目（120分）の筆記試験、および面接試問から成っており、入試業務は阿蘇教学課が担当し、筆記試験問題の作成は完全な情報管理のもとで行う体制を確立させている。また、学力試験と面接試問を課さない推薦入学試験においては、推薦基準を平準化するために出願資格に加えて研究科独自の出願要件を設けており、推薦期間内に専攻主任、予定指導教員、研究内容の専門分野に近い教員（1～2名）の合計3～4名による事前面接を行い、出願後の書類審査の資料としている。これらの入学者選抜は、すべてにおいて農学研究科長の指揮、監督の下で厳正に実施されている。なお、2014年度実施の入試結果は以下のとおりである。

秋学期一般入学試験：志願者1名、合格者1名

春学期推薦入学試験（第1期）：志願者2名、合格者2名

春学期一般入学試験（第1期）：志願者3名、合格者2名

春学期推薦入学試験（第2期）：志願者3名、合格者3名

春学期一般入学試験（第2期）：志願者5名、合格者5名

（3）適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

農学研究科は、生命現象や生物の機能の解析やその応用を総括的に教育・研究するために農学専攻1専攻を設置し、その定員は各学年12名、収容定員24名である。また、2014年度における専任教員は25名であり、本研究科の教育目標と専任教員数、および2010年度～2014年度実施の選抜試験における各志願者が11～20名（平均14.6名）であるように、受験者数が入学定員を上回っていることから、定員の設定は適切であると考えられる。これらの定員に対する入学者数の各年度の割合は66.7%～125.0%で推移し、2014年度の充足率は収容定員に対して1年次生15名、2年次生11名の1.08となっており、ほぼ適切に管理されている。2014年度実施の選抜試験の結果からも次年度の充足率は1.16となることが予測されるため、研究指導教員の人数や教育・研究の質の担保を考慮しながら、今後はさらに慎重な在学生数の管理が必要である。

（4）学生募集および入学者選抜は、学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

入試制度については、入学センターを中心に組織的に検討されてきており、研究科からは入試企画専門委員が関与している。農学研究科内には、学生募集および入学者選抜のあり方について定期的に検証する委員会等組織は設置していない。しかし、入学者選抜実施における問題・改善点については、次年度入試要項の策定時に実際的な検証の機会となっており、随時必要な情報は教員間で共有するようにしている。また、検討が必要な場合は研究科評価委員会等で予め審議し、さらに研究科教授会で議論後承認を得ることとしている。2014年度は教員（学部）の異動があったため、次年度以降入試へ向けた専門試験科目の確認と検証を行った。

2. 点検・評価

評定 A

基準5の充足状況

学生の受入れ方針は適切に公開されており、その透明性も確保している。また、公正で適切に学生募集と入学者選抜試験を行い、その結果、教育と研究の質を保証できる収容定員の維持・管理がなされている。よって、学生の受入れに関する基準はほぼ達成されていると考える。

①効果が上がっている事項

アドミッションポリシーは「大学院ガイド」で広く公開されており、志望する学生に適切に明示されている。また、学内においては入学当初に東海大学農学教育システムの紹介の中でも本研究科の入試制度について言及し対応している。その結果、2013年度実施入試以降、入学者が入学定員を上回るようになっている。

②改善すべき事項

入学者はすべて学内からであり、今後は学外への効果的な広報活動を進める必要がある。

3. 将来に向けた発展方策

①効果が上がっている事項

学内における農学研究科の紹介など、学部生への周知を図ってきた結果、2010年度からの入学者は、8名、8名、11名、11名、2014年度は16名（内1名は秋学期入学）と推

移しており、大学院進学者は増加傾向にある。さらに、修了者の博士課程への進学者も増えており、一定の成果を挙げていると考えられる。今後もより適切な学生募集、入学者選抜の実施のためへの改善努力を継続したい。

②改善すべき事項

学生受入れの基準はほぼ達成されており、前述のように一定の成果が認められている。また、その一方では大幅な定員超過がないように管理体制を整える必要がある。今後、農学研究科では教員の定年による大幅な異動が予測される。したがって、それらに対応でき、教育・研究の質の保証が担保されていく組織的検証システムを確立する必要がある。

4. 根拠資料

- 5-1 東海大学大学院ガイド2014
- 5-2 2016年度東海大学大学院春学期一般・社会人特別入学試験要項
- 5-3 2015年度東海大学大学院春学期一般・社会人特別入学試験要項
- 5-4 2015年度東海大学大学院春学期推薦入学試験要項
- 5-5 2014年度東海大学大学院秋学期一般・社会人特別入学試験要項
- 5-6 2014年度東海大学大学院秋学期推薦入学試験要項
- 5-7 東海大学オフィシャルサイト入試情報
http://www.u-tokai.ac.jp/admission_app/
- 5-8 東海大学オフィシャルサイトアドミッションポリシー大学院
http://www.u-tokai.ac.jp/about/concept/admission_policy2.html
- 5-9 東海大学 2013 年度教育研究年報基礎データ（表 18-3）
- 5-10 2010 年度～2014 年度の各第 1 回農学研究科教授会議事録（資料 2）
- 5-11 農学研究科大学院推薦入試に関する申し合わせ（2013 年度第 2 回農学研究科教授会資料）

5-3-19 体育学研究科

1. 現状の説明

（1）学生の受入れ方針を明示しているか。

学生の受入れ方針（アドミッションポリシー）については、「大学院ガイド」に記載している。また、東海大学ホームページにおいても掲載し、広く周知を図っている。

（2）学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

「入学試験要項」において大学院の入学試験における出願資格、出願手続方法、試験上の注意、合格発表、入学手続期間について記載している。特に出願手続については入試制度毎に必要な書類が異なるため、書類の種別、提出期限について詳細に記載している。

選抜方法や選考方法については、「入学試験要項」において、試験科目が明示されている。各入学試験の結果については、東海大学ホームページ及び「大学院ガイド」に記載している。

（3）適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

今年度より定員増が認められ10名から15名となった。入学者は17名であり、1.13の倍率で多少高いが、許容範囲内の定員設定となった。

（4）学生募集および入学者選抜は、学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

学生の受入れ方針が、適切に適用されているか入学後の追跡調査を入学センターにて行っている。それらの情報を得て、入試制度の改革の検討を行っている。

2. 点検・評価

評定 A

基準5の充足状況

学生の受入れ方針を明示し、それに基づいた適切な学生募集および入学者選抜を行っていると考える。定員に関しては収容定員を上回っている。

① 効果が上がっている事項

定員増が認められたことによって、適切な在籍学生数となった。

② 改善すべき事項

学生が希望する研究領域に偏りが見られる事態の解決の方法検討。

3. 将来に向けた発展方策**① 効果が上がっている事項**

収容定員に基づいた在籍学生数の適正な管理。

② 改善すべき事項

体育学研究科において適切な収容定員の再考。

4. 根拠資料

5-1 東海大学ホームページ

http://www.u-tokai.ac.jp/prospective_students/admission_app/examination_about/graduate/m13.html

5-2 大学院ガイド

5-3-20 医学研究科

1. 現状の説明**(1) 学生の受入れ方針を明示しているか。**

学生の受入れ方針（アドミッションポリシー）については、「入学試験要項」、「大学院ガイド」に記載している。また、本学オフィシャルサイトにおいても掲載し、広く周知を図っている。

「入学試験要項」において、出願資格を設定し医学研究科の期待する知識の内容及び水準について明示している。また、本学オフィシャルサイトにおいても同様に掲載している。

(2) 学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

「入学試験要項」において入学試験における出願手続方法、試験上の注意、合格発表、入学手続方法について記載している。特に、出願手続については入試制度毎に必要な書類が異なるため、書類の種別、提出期限について詳細に記載している。また、試験実施においては試験当日に持参できるものや不正行為の対処方法についても記載している。これらの措置によって、学生の受験時の不安低減に努めている。

(3) 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

修士課程の定員充足率は、1.00であり、適切に管理されている。博士課程の定員充足率は、入学志望者が臨床研修医の人数と関連することもあり、0.49であるが、質の確保の観点から入学試験における合否判定を厳正に行い管理している。

研究分野によっては、海外からの留学生を厳正な合否判定により積極的に受け入れている。

(4) 学生募集および入学者選抜は、学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

学生の受入れ方針が、適切に運用されているか入学後の追跡調査を行っている。その結果を踏まえ、入試制度の改革の資料等に活用している。

2. 点検・評価

評価 A

基準5の充足状況

学生の受入れ方針について適切に公開しており、透明性も確保できている。また、収容定員の管理についても、適正に管理されている。

①効果が上がっている事項

アドミッションポリシーについては、「入試要項」や本学オフィシャルサイトを通じ広く公開されており、本学を志望する学生に適切に提示されていると評価できる。

②改善すべき事項

博士課程の入学志望者が臨床研修医の人数に影響を受けることもあり、広報の推進に加え、収容定員の見直しを行う等の施策を行い改善に努める必要がある。

3. 将来に向けた発展方策**①効果が上がっている事項**

多様な医学研究分野を医学研究科ホームページ等で広報することにより、学内だけでなく、学外および海外からも本学を志望する学生を受け入れることにつながっている。今後、英語での広報を拡充するなど、多様な学生を確保する方策を充実させたい。

②改善すべき事項

博士課程の入学志望者が臨床研修医の人数に影響を受けることもあり、医学部の時より医学研究科において研鑽を重ねる重要性を説く機会を多く設けるなど、臨床研修全般のあり方について医学部および臨床研修部等と検討を行っていく。

4. 根拠資料

5-1 「東海大学 大学院ガイド 2014」

5-3-21 健康科学研究科

1. 現状の説明

（1）学生の受入れ方針を明示しているか。

健康科学研究科の学生の受け入れ方針は大学全体としては「入学試験要項」に、また健康科学研究科・両専攻の詳細は「大学院ガイド」に記載している。また、東海大学大学院ホームページ：

http://www.u-tokai.ac.jp/prospective_students/admission_app/examination_about/graduate/m15.html

にも記載されている。

（2）学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

「大学院ガイド」に記載しているように、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っている。

（3）適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

2014年度の健康科学研究科看護学専攻の大学院生は定員20名に対し、21名、保健福祉学専攻では定員20名に対し、8名の大学院生であった。

（4）学生募集および入学者選抜は、学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

学生の受入れ方針が、適切に適用されているかを、大学院入試企画専門委員会を中心に、毎年検証を行っている。大学院入試企画専門委員会は看護学専攻、保健福祉学専攻が合同で行っている委員会である。

2. 点検・評価

評定 A

基準5の充足状況

学生の受入れ方針については、適切に公開しており、透明性も確保している。

収容定員の管理についても、問題はない。

①効果が上がっている事項

看護学専攻では、大学院生の収容定員を確保している。

②改善すべき事項

保健福祉学専攻では、定員数の40%の大学院生数である。

3. 将来に向けた発展方策

①効果が上がっている事項

看護学専攻では、大学院生の収容定員を確保している。

②改善すべき事項

保健福祉学専攻の大学院生数を充足させたい。そのために、さらに広報活動を広めたい。

4. 根拠資料

5-1 「大学院ガイド」

5-2 東海大学大学院ホームページ：

http://www.u-tokai.ac.jp/prospective_students/admission_app/examination_about/graduate/m15.html